

May 2024

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

MINORCA

終演時のカーテンコールを撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。
SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」【#nhkso】の追加をぜひお願いいたします。
ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、
周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

You can take photos with your smartphone or compact digital camera.
When you share the photos on social media, please add #nhkso.
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.

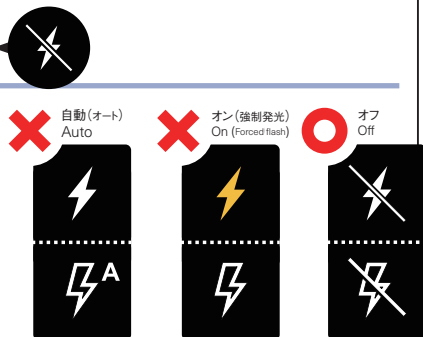
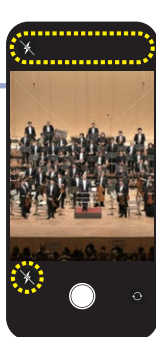


「フラッシュ」オフ設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

Set your device to "flash off mode."

Make sure that your smartphone is on "flash off mode" before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡(カメラマーク)を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン(強制発光)」「自動(オート)」「オフ」に変更できます。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは47ページをご覧ください



こちらの2次元コードからアンケートページへアクセスできます

<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください
Be sure to set your phone to silent mode and turn off your watch alarm etc. during the performance.



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようにご配慮ください
Please refrain from making any noise, such as engaging in private conversations or turning booklet pages.



発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください
Please refrain from visiting the concert hall if you have a fever or feel unwell.



演奏は最後の余韻までお楽しみください
Please wait until the performance has completed before clapping hands or shouting "Bravo."



演奏中の入退場はご遠慮ください
Please refrain from entering or leaving your seat during the performance.



適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください
Your proper hand disinfection and cough etiquette are highly appreciated.



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします(終演時のカーテンコールをのぞく)
Video or audio recordings, and still photography at the auditorium are strictly prohibited during the performance. (Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)



補聴器が正しく装着されているかご確認ください
Please make sure that your hearing aids are properly fitted.



「ブラボー」等のお声掛けをされる際は、周囲の方へのご配慮にご協力をお願いいたします
When shouting "Bravo," please be considerate of people around you.

PHILHARMONY

CONTENTS

MAY 2024

5

- 3 [公演プログラム] **Aプログラム**
- 9 [公演プログラム] **Bプログラム**
- 14 [公演プログラム] **Cプログラム**
- 19 [シリーズ] **N響百年史** | 第46回 | **儂くも美しく燃え** 片山杜秀
- 23 2024年6月定期公演のプログラムについて——公演企画担当者から
- 25 チケットのご案内(定期公演 2023年9月~2024年6月)
- 26 2023-24定期公演プログラム
- 27 2024-25定期公演プログラム
- 33 チケットのご案内(定期公演 2024年9月~2025年6月)
- 34 特別公演／各地の公演
- 41 NHK交響楽団メンバー
- 42 特別支援・特別協力・賛助会員
- 46 曲目解説執筆者／Information
- 47 みなさまの声をお聞かせください!
- 48 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

Artist Profiles & Program Notes

- 49 Program A
- 53 Program B
- 56 Program C
- 59 The Subscription Concerts Program 2023-24
- 60 The Subscription Concerts Program 2024-25
- 63 N響関連のお知らせ
- 64 N響の社会貢献
- 65 役員等・団友

Special Thanks




NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

東日本旅客鉄道株式会社

 NTT 東日本

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

East Japan Railway Company

Nippon Telegraph and Telephone East Corporation

PROGRAM

A

第2010回

NHKホール

5/11 [土] 6:00pm

5/12 [日] 2:00pm

指揮

ファビオ・ルイージ

コンサートマスター

篠崎史紀

パンフィリ

戦いに生きて[日本初演][16']

レスピーギ

交響詩「ローマの松」[21']

- I ボルゲーゼ荘の松
- II カタコンブ付近の松
- III ジャニコロの松
- IV アッピア街道の松

—— 休憩(20分) ——

レスピーギ

交響詩「ローマの噴水」[18']

- I 夜明けのジュリアの谷の噴水
- II 朝のトリトンの噴水
- III 昼のトレヴィの噴水
- IV たそがれのメディチ荘の噴水

レスピーギ

交響詩「ローマの祭り」[23']

- I チルチェンセス
- II 五十年祭
- III 十月祭
- IV 主顕祭

※当初発表の曲順から変更となりました。

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは47ページをご覧ください



こちらの2次元コードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

Artist Profile

ファビオ・ルイージ (指揮)



1959年、イタリア・ジェノヴァ出身。デンマーク国立交響楽団首席指揮者、ダラス交響楽団音楽監督を務める。N響とは2001年に初共演し、2022年9月首席指揮者に就任。就任記念公演でヴェルディ《レクイエム》を、2023年12月のN響第2000回定期公演ではマーラー《一千人の交響曲》を指揮し、この2つの記念碑的公演で共に大きな成功を取めた。またベートーヴェン、ブラームス、ブルックナー、R. シュトラウスなどのドイツ・オーストリアの作品や、フランクやサン・サーンスといったフランス語圏の作品に取り組み、その歌心と情熱に溢れた指揮は、多くの聴衆の心を掴んでいる。2023年8月には首席指揮者としての任期が3年間延長され、2028年8月までとなった。

これまでにチューリヒ歌劇場音楽総監督、メトロポリタン歌劇場首席指揮者、ウィーン交響楽団首席指揮者、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団および同歌劇場音楽総監督、MDR(中部ドイツ放送)交響楽団芸術監督、スイス・ロマン管弦楽団音楽監督、ウィーン・トーンクンストラ管弦楽団首席指揮者などを歴任。このほか、イタリアのマルティナ・フランカで行われるヴァッレ・ディートリア音楽祭音楽監督も務めている。また、フィラデルフィア管弦楽団、クリーヴランド管弦楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン交響楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、サイトウ・キネン・オーケストラに定期的に客演し、世界の主要オペラハウスにも登場している。録音には、ヴェルディ、ベッリーニ、シューマン、ベルリオーズ、ラフマニノフ、リムスキー・コルサコフ、マルタン、そしてオーストリア人作曲家フランツ・シュミットなどがある。また、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団とは数々のR. シュトラウスの交響詩を収録しているほか、ブルックナー《交響曲第9番》の解釈は高く評価されている。メトロポリタン歌劇場とのワーグナー《ジークフリート》《神々のたそがれ》のレコーディングではグラミー賞を受賞した。

Program Notes | 安川智子

「ローマ」という都市が背負う歴史と伝統の重みは計りしれない。西ヨーロッパのアイデンティティの源には古代ローマがあり、キリスト教カトリックの総本山でもある。そのローマと関わりの深い20世紀と21世紀のイタリア人作曲家2名の作品によるイタリア・プログラム。イタリア人指揮者ファビオ・ルイージが奏でる、遙かなるローマへの想いを乗せた音空間は、古代と未来が融合するかのごとく新感覚を与えてくれるはずだ。

パンフィリ

戦いに生きて [日本初演]

リカルド・パンフィリ(1979~)は、イタリア中部の都市テルニに生まれた。2006年にローマの聖チェチーリア国際作曲コンクールで1等賞を獲得して以来、数々の賞を受賞

している。今回日本初演となる管弦楽曲《戦いに生きて》は、2017年にフィレンツェ五月音楽祭管弦楽団の委嘱で作曲され、同年12月31日に、ファビオ・ルイージの指揮で世界初演された。2022年には改訂版がトリノで、やはりルイージの指揮によって演奏されている。前者はベートーヴェンの《交響曲第9番》、後者はブルックナーの《交響曲第4番》と組み合わせたプログラムで、パンフィリ自身はこの曲を、ベートーヴェンとヴェルディを結ぶ「戦い」をイメージして作曲している。すなわち習慣やマンネリを打ち破り、新たな言語を開拓し、境界を押し広げる芸術家の内なる闘志である。パンフィリはそれを「音楽の精神」と同等のものにとらえている。

曲の冒頭、弦楽器の弱音によるかすかな響きに^{しずく}雫を落とすようなハーブの音が耳を惹きつける。曲が進むにつれて時折襲う激しい音の波や、ティンパニの厳しい刻みが「戦い」をイメージさせるものの、この曲の基調となる要素はむしろ、限られた楽器の中から厳選された音の集積によって私たちが包み込む響きの美しさであり、その和声的な美から^{にじ}滲み出る秘めたる意志である。最後に到達する悲壮的な美（あるいは音楽の精神）は、そこから次にどのような曲が立ち現れるかによって、プリズムのように印象を変えるだろう。

作曲年代	2017年(2022年改訂)
初演	2017年12月31日、フィレンツェ歌劇場、ファビオ・ルイージ指揮、フィレンツェ五月音楽祭管弦楽団 [改訂版]2022年2月10日、ファビオ・ルイージ指揮、RAI国立交響楽団
楽器編成	フルート3(ピッコロ2)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、ハーブ、マリンバ、シロフォン、アンティーク・シンバル、サスペンデッド・シンバル、ボンゴ、小太鼓、レインスティック、ヴィブラフォン、チャイム、タムタム、テンブルブロック、トムトム、サンドペーパーブロック、大太鼓、グロックンシュピール、ゴング、弦楽

レスピーギ

交響詩「ローマの松」

ボローニャ生まれのオットリーノ・レスピーギ(1879~1936)は、1913年にローマの聖チェチーリア音楽院の作曲教授の職を得てローマに移住し、以後この地を活動の拠点とした。「ローマ三部作」と呼ばれる交響詩群、《ローマの噴水》(1916)、《ローマの松》(1924)、《ローマの祭り》(1928)は、ローマ移住後に、それぞれ間を置いて作曲されたものである。《ローマの松》は、ローマの4つの歴史的名所に立つ松を主題とする4部分からなり、ひと続きに演奏される。何世紀も生き続ける松の木を前に、古代ローマへと想像の羽は広がり、第2、第4曲では、荘厳なる古代世界が音楽によって表現される。

〈ボルゲーゼ荘の松〉では、17世紀初頭に建造されたボルゲーゼ荘の庭園で子供たちが遊んでいる様子を、チェレスタ、ハーブ、ピアノを加えた輝かしい響きで描く。〈カタコ

ンブ付近の松〉は、古代ローマで迫害された初期キリスト教徒の地下墓所であるカタコンブから聞こえてくる祈りの歌を、グレゴリオ聖歌に由来する旋律を用いて表現する。ピアノの分散和音に続くクラリネットの旋律で幕を開ける〈ジャンニコロの松〉では、ローマの街を一望できるジャンニコロの丘に立つ松が月明かりに浮かび上がり、幻想的な響きの中から、最後に、ナイチンゲールのさえずり（今回は鳥笛で演奏）が聞こえてくる。〈アッピア街道の松〉は夜明けのアッピア街道に立つ松である。低い弱音の刻みの中から、イングリッシュ・ホルンの異国的旋律が漂い、いつしか古代ローマの世界に入り込む。街道を行進する古代ローマ軍が次第に近づき、通過していき^{よみがえ}る様が、オルガンやバンダとして指定された金管楽器の堂々とした響きによって蘇る。

作曲年代	1923～1924年
初演	1924年12月14日、ローマ、アウグステオ劇場、ベルナルディーノ・モリナーリ指揮
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3(第2曲で1名が舞台裏で演奏)、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、グロッケンシュピール、タムタム、トライアングル、シンバル、サスベンデッド・シンバル、タンブリン、大太鼓、ラチェット、ハープ1、ピアノ1、チェレスタ1、オルガン1、弦楽、バンダ:ソプラノ・フリコルノ2(トランペットで代用)、テノール・フリコルノ2(トランペットで代用)、バス・フリコルノ2(トロンボーンで代用)、鳥笛

レスピーギ

交響詩「ローマの噴水」

20世紀初頭のローマは、伝統と前衛の両極端が同居する複雑な都市であった。パリからは、作曲コンクールであるローマ賞の大賞受賞者がメディチ荘へと学びにやってくる。1885年にローマに到着したドビュッシーにはその伝統が息苦しかったが、ローマの若き作曲家たちはヨーロッパの前衛を積極的に吸収していった。1915年にピアノ教授として聖チェチーリア音楽院に赴任し、レスピーギの同僚となったアルフレード・カゼッラは、パリ音楽院のフォーレのクラスでラヴェルとともに学んでおり、レスピーギに大いに刺激を与えた。

1916年に作曲された《ローマの噴水》は、夜明けから夕暮れまで、刻々と変化する日の光を反映した水の幻想的美しさを表している点で、ドビュッシーの《海》と同系統にあるが、それだけではない。ローマの噴水に施された神々の彫刻が水と一体となって想像の世界を広げていく。イタリアの古楽復興にも関心をもつレスピーギは、古い書法と前衛の融合した響きによって、ローマの4つの噴水を表現した。全体は4部分からなり、ひと続きに演奏される。

〈夜明けのジュリアの谷の噴水〉は、夜明けの冷たく湿った霧のなかを羊の群れが通り過ぎる牧歌的情景。〈朝のトリトンの噴水〉はホルンのファンファーレに始まり、この噴水を飾るトリトンの像が、朝日のなか、水の精ナイアデスと水しぶきを浴びて踊り出すという

設定。〈昼のトレヴィの噴水〉ではネプチューンの戦車が通過する勇ましさが描かれ、最後に〈たそがれのメディチ荘の噴水〉は、夕暮れ時の穏やかな自然の音と、噴水や鐘の音が溶け合う感覚的な美を映し出し、心地よい余韻を残す。

作曲年代	1916年
初演	1917年3月11日、ローマ、アウグステオ劇場、アントニオ・ヴァレニエリ指揮
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、シンバル、サスペンデッド・シンバル、トライアングル、鐘、グロッケンシュピール、ハーブ2、ピアノ1、チェレスタ1、オルガン1、弦楽

レスピーギ

交響詩「ローマの祭り」

ローマ3部作の最後を飾る《ローマの祭り》は、前2作と同じく4部分からなる単一章奏の形式をとり、ローマの特徴的な4つの祭りを、時代を自在に行き来して、映画のごとく劇的に描写した作品である。キリスト教(カトリック)とかかわりの深い「祭り」の音楽には、レスピーギの長年にわたる聖歌研究に加え、1920年代に大成功を収めた地であるアメリカの趣味が反映されている。1925年末から翌年初めにかけて、レスピーギは初めてのアメリカ・ツアーを行い、各地で熱烈な歓迎を受けた。ミラノの指揮者トスカニーニはこの時にニューヨーク交響楽団と《ローマの松》アメリカ初演を成功させ、1928年にはニューヨーク・フィルハーモニー交響楽団へと改称した同楽団の常任指揮者に就任する。こうして舞台は整い、1929年、本作はトスカニーニの指揮により、ニューヨークで世界初演された。

〈チルチェンセス〉は古代ローマの皇帝ネロの時代、猛獣とキリスト教徒ら人間が見世物として決闘した残酷な祭りを描写する。古代ローマ時代の金管楽器、ブッキーナが指定されている(本日はトランペットで代用)。〈五十年祭〉は50年ごとに行われるカトリックの聖年祭で、巡礼者たちがローマを眼前にしたときの感慨を、賛歌の旋律も援用して表現する。〈十月祭〉は、秋のぶどうの収穫を祝う祭りである。前半のホルンの活躍、後半のマンドリンによるセレナーデなどさまざまな楽器の独奏が華を添える。〈主顕祭〉は主顕祭前夜の祭りの賑やかさを、考えうる限りの管弦楽法を尽くして描ききる。

作曲年代	1928年
初演	1929年2月21日ニューヨーク、カーネギー・ホール、アルトゥーロ・トスカニーニ指揮、ニューヨーク・フィルハーモニー交響楽団
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、Dクラリネット1、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット4、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、大太鼓、小太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、シロフォン、タムタム、タンブリン、トライアングル、グロッケンシュピール、鈴、中太鼓、ラチェット、鐘、タヴォレッタ(木板)、ピアノ1(4手連弾)、マンドリン、オルガン1、弦楽、バンダ:ブッキーナ3(古代のラッパ。本日はトランペットで代用)

イタリア・ボローニャの音楽学校でヴァイオリンとヴィオラ、音楽史、作曲を学んだレスピーギは、20代前半の頃、サンクトペテルブルクの帝室劇場でヴィオラ奏者として活躍。このときにロシアの大作作曲家リムスキー・コルサコフに師事し、華麗な管弦楽法を身につけた。その後、作曲家へと転身、ドビュッシーなどの色彩豊かな音楽からも影響を受けて書かれた出世作が、「ローマ三部作」の1作目《ローマの噴水》だ。晩年は指揮者として、また声楽家の妻の伴奏ピアニストとして、自作の演奏活動にも注力した。

Ottorino Respighi (1879-1936)

レスピーギ オットリーノ!

カラフルな響きが魅力的!

A
2024
MAY
【第2010回】



ピアノを弾くレスピーギ。
《ローマの噴水》で描かれる最後の噴水
〈たそがれのメディチ荘の噴水〉に想いを馳せて——
イラストレーション: ©IKE

古典へのまなざし

レスピーギは学生時代から古の時代^{いにしえ}の音楽にも深い関心を寄せ、そうした古風な要素を自作品に巧みに取り入れていた。ローマ・カトリック教会の典礼音楽、グレゴリオ聖歌の旋律が登場する《ローマの松》の第2曲〈カタコンベ付近の松〉はその好例。一条の光のように鳴り響くトランペットの調べは美しく、心に染みる。

B

第2012回

サントリーホール

5/22 水 7:00pm

5/23 木 7:00pm

指揮	ファビオ・ルイージ プロフィールはp.4
ピアノ	ルドルフ・ブフビンダー
コンサートマスター	川崎洋介

ブラームス

ピアノ協奏曲 第1番 二短調 作品15
[44']

- I マエストーソ
- II アダージョ
- III ロンド:アレグロ・ノン・トロppo

— 休憩 (20分) —

ニルセン

交響曲 第2番 口短調 作品16
「4つの気質」[35']

- I アレグロ・コッレリーコ
- II アレグロ・コモド・エ・フレマティコ
- III アンダンテ・マリンコーリコ
- IV アレグロ・サンゲイネオ

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは47ページをご覧ください

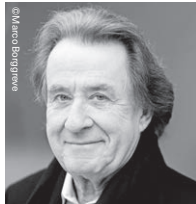


こちらの2次元コードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

ルドルフ・ブフビンダー (ピアノ)


© Manfred Buhkinder

1946年、チェコのボヘミア地方に生まれたルドルフ・ブフビンダーは、ウィーンの音楽伝統を汲みつつ、大らかな自由を謳歌するピアニスト。「継続するクレッシェンド」と自身のキャリアを称していたのは12年ほど前のこと。佳き伝統を担う王道を往く自信が深まるとともに、肩肘張ったアグレッシヴさからは精神的に解放されたのか、その演奏に伸びやかな感情表現や即興的な清新さも息づくようになった。生真面目な学究と鍛錬の先に、ライブならではの感興と高揚のなか、確信をもって語られる音楽は、生来とみられる楽観的な情熱を帯び、歳月を重ねてなおも若々しさを謳歌している。

レパートリーの中心はバッハ、ウィーン古典派とドイツ・ロマン派だが、現代作品への目配りもみせる。3度もの全集録音をまとめたベートーヴェンのピアノ・ソナタ32曲については、各地での全曲演奏を60回以上も重ね、今年3月にも東京・春・音楽祭で展開。実に10年ぶりに臨むN響定期公演は、前回と同じくルイージの指揮。アーノンクールやメータとの録音も名高いブフビンダーの十八番、ブラームスの《ピアノ協奏曲第1番》で渾身の熱演が期待される。

[青澤隆明／音楽評論家]

Program Notes | 小林ひかり

本日演奏されるのは、いずれも作曲家が比較的若い頃に書いた作品である。ヨハネス・ブラームス(1833～1897)にとって最初の協奏曲となる《ピアノ協奏曲第1番》は、その独特さゆえ評価されるまでに年月を要した。カール・ニルセン(1865～1931)の《交響曲第1番》はブラームスの影響が濃いとされているが(ちなみにニルセンは《第1番》が初演された1894年にウィーンのブラームスを訪ねている)、《交響曲第2番》はそこから抜け出そうとする作品である。彼らの野心作に耳を傾けたい。

ブラームス

ピアノ協奏曲 第1番 二短調 作品15

1853年9月、20歳のブラームスはデュッセルドルフのローベルト・シューマン(1810～1856)一家を訪れる。そこでブラームスが披露した作品から彼の才能を見いだしたシューマンは、自身が創刊した音楽雑誌『新音楽時報』で久しぶりに筆を執り、「新しい道」と題してブラームスを世に紹介し、彼の輝く未来を予言した。ブラームスの作品出版の後押しもした。そんなシューマンは、以前から精神疾患に悩まされており、翌年2月に自殺未

遂、その後療養のためボンにある施設に移って約2年半後に亡くなるが、その間、ブラームスは恩人の家族を支えた。そうしたなかでシューマンの妻でピアニストのクララ(1819～1896)との親交を深めていく。

《ピアノ協奏曲第1番》はこの時期に書き始められた。といっても、初めから協奏曲が念頭にあったのではない。1854年の春、ブラームスは《2台のピアノのためのソナタ》を書き上げたが、やがて2台ピアノでは満足できなくなり、交響曲に改作しようと構想を練るもの行き詰まり、最終的に協奏曲として完成させた。その過程では、クララや友人でヴァイオリニストのヨアヒムに助言を仰いだ。とりわけヨアヒムとの間の膨大な手紙のやり取りは重要で、彼からの返事を受けて、ブラームスは1862年の出版まで修正を続けた。苦心^{くしんさんたん}惨憺^{さんたん}の末に出来上がった《ピアノ協奏曲第1番》は長大で、ピアノのみを際立たせるのではなく、ピアノとオーケストラが対等な関係に置かれることから、ピアノ付き交響曲と呼ばれることもある。

第1楽章 ソナタ形式。冒頭には速度の指示がなく、「荘厳に(マエストーソ)」とだけ書かれている。重く響く持続低音の上で、トリルを伴う第1主題が奏される。へ長調の第2主題はオーケストラ伴奏なしのピアノ独奏によって提示される。ブラームスの懊惱^{おうれう}や激情、憧憬を思わせるような楽章である。

第2楽章 3部形式。草稿ではラテン語の祈禱文^{きとう}が記されていたこの楽章には、宗教的な気高さがある。ブラームスは作曲中にクララへの手紙で、このアダージョ楽章を「あなたの優しい肖像画」と表現した。

第3楽章 ロンド。活気あふれる主題で始まり、中間部ではバロック風のフガートが現れる。第1楽章にはなかったカデンツァは、主題の再現のあとと結尾で登場し、力強く曲が結ばれる。

作曲年代	1854～1858年
初演	1859年1月22日、ヨーゼフ・ヨアヒム指揮、作曲者自身によるピアノ独奏、ハノーファーの宮廷楽団、ハノーファーの宮廷劇場にて
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ1、弦楽、ピアノ・ソロ

ニルセン

交響曲 第2番 口短調 作品16「4つの気質」

この交響曲のタイトルの「4つの気質」とは、古代ギリシャの医師ヒポクラテスらによる四体液説に基づいて分類された人間の気質のことで、どう猛な黄胆汁質(第1楽章)、無気力な粘液質(第2楽章)、憂鬱な黒胆汁質(第3楽章)、陽気で楽観的な多血質(第4楽章)にわけられる。これらの楽章を形容する語が示すのは、ニルセンが各楽章でおもに

表現しようとした気分や感情であって、彼はこの交響曲は標題音楽でないとしている。形式的にも伝統的な交響曲の構造に基づく。

ニルセンにインスピレーションを与えたのは、デンマークのシェラン島の村の旅館で妻や友人たちと飲みながら見た、4つの気質を描いた滑稽な絵画であった。作曲から約30年後の1931年、亡くなる直前のニルセンはストックホルムでの公演に際して《交響曲第2番》についての執筆を依頼された。彼はここでの記述が標題(プログラム)として捉えられるべきでなく、彼の個人的な事であるということを断った上で、作曲当時を振り返り、長い文を書いた。それによると、例えば件の絵のなかの黄胆汁質は、男が馬にまたがり、剣を振り回し、髪は乱れ、目は転がり落ちそうで、顔は怒りと憎しみで歪^{ゆが}んでいたという、その誇張された表現にニルセンは思わず吹き出してしまったそうだが、それがあの日、その絵に音楽的な核心やアイデアが含まれることに気づいたという。

第1楽章 ソナタ形式。冒頭でいきなり強烈な第1主題が提示される。これに対して第2主題は最初静かに表情豊かに歌われる。この第2主題が、激しく動く音型や鋭いリズムによって遮られたのち、今度はフォルティッシモで大らかに力強く奏される。このように時折優しい表情を見せながら、気分の変化が激しい強^{きょうじん}靱な音楽が繰り返されていく。

第2楽章 第1楽章とは正反対に、「エネルギーや感情などからできる限り離れた」とニルセンは述べている。ト長調のゆったりとしたワルツのリズムで動きの少ない主題だが、第1楽章の第2主題や第3楽章の主題にもある3度上行のモチーフから成っており、楽章間の関連性が見られる。

第3楽章 3部形式。重く憂鬱な主題に続いて、ため息のようなオーボエのモチーフが現れる。これが徐々に劇的に展開し、嘆きと痛みのクライマックスに到達する。短い経過ののち、ささやき合うような穏やかな中間部へと移行する。

第4楽章 遊び心ある弾むような主題を持つ終楽章は、第1楽章の主調の平行調であるニ長調で始まる。ニルセンがこの楽章で表現しようとしたのは、「全世界が自分のもので、何もしなくても幸福が無い込んでくると信じて、考えもせず突き進む人の性格」。「しかし、たった一度、彼らしくなく熟考する」(アダージョ・モルト)と、最後は堂々とイ長調の行進曲で締めくくる。少年時代、貧しいながらもフーン島でのびのびと育ったニルセンの人柄を反映するような、前向きでユーモアあふれる楽章である。

作曲年代	1901年～1902年11月22日
初演	1902年12月1日、作曲家自身による指揮、コペンハーゲン、デンマーク・コンサート協会の演奏会にて
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ2(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、弦楽

デンマークが誇る、個性豊かな作曲家

カール・ニルセン

Carl Nielsen (1865–1931)

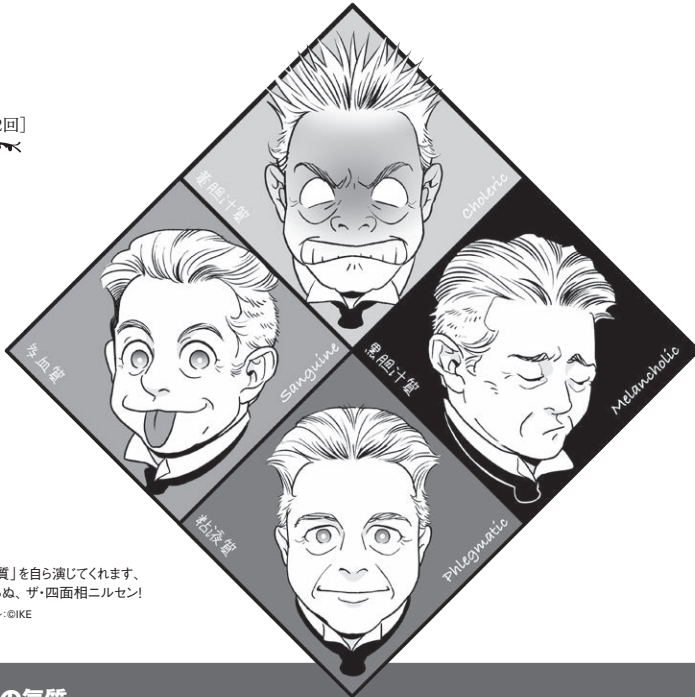
1865年デンマーク生まれのニルセンは、同年にフィンランドで生まれたシベリウスとともに北欧を代表する作曲家のひとり。貧しくも音楽と愛情にあふれる家庭、そしてのどかな自然のなかで成長したニルセンは、クルクルと変わる表情も賑やかな少年だったようだ。ニルセンの音楽創作の原風景はこの頃にあると、のちに彼自身が語っている。交響曲は6作遺されており、本日の《交響曲第2番》は、遊び心に満ちている。

B

2024

MAY

[第2012回]



「4つの気質」を自ら演じてくれます、
百面相ならぬ、ザ・四面相ニルセン!

イラストレーション: ©IKE

4つの気質

古代ギリシアの医師ヒポクラテスらは、人間の体液には血液・粘液・黄胆汁・黒胆汁の4種類があるという「四体液説」を唱えており、この体液の量のバランスによって生じるのが人間の「4つの気質」、すなわち「短気な黄胆汁質」「冷静な粘液質」「憂鬱な黒胆汁質」「楽天的な多血質」であると考えられていた。ニルセンはここからヒントを得て《交響曲第2番》のモチーフにしたという。

PROGRAM

C

第2011回

NHKホール

5/17 **金** 7:30pm

5/18 **土** 2:00pm

指揮

ファビオ・ルイーヂ

プロフィールはp. 4

コンサートマスター

郷古 廉

[開演前の室内楽(Cプログラム限定)]

17日(金)6:45pm~/18日(土)1:15pm~

クラリネット、小クラリネット:伊藤 圭 ファゴット、コントラファゴット:水谷上総

トランペット、フルーゲルホルン:長谷川智之 トロンボーン、ユーフォニアム:新田幹男 打楽器:竹島悟史

ラヴェル(竹島悟史編)/組曲「マ・メール・ロワ」

※演奏はご自身の座席でお楽しみください。

※演奏中の客席への出入りは自由です。

メンデルスゾーン

「夏の夜の夢」の音楽

—「序曲」「夜想曲」「スケルツォ」

「結婚行進曲」[28']

メンデルスゾーン

交響曲 第5番 二短調 作品107

「宗教改革」[28']

I アンダンテ—アレグロ・コン・フォーコ

II アレグロ・ヴィヴァーチェ

III アンダンテ

IV コラール「神はわがやぐら」:アンダンテ・コン・
モート—アレグロ・マエストロ

※ この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは47ページをご覧ください



こちらの2次元コードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhks.or.jp/enquete.html>

フェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディ(1809~1847)の音楽は、古典主義的な均整とロマン主義的な感性の融合した優美さが大きな魅力である。彼の管弦楽作品とりわけ演奏会用序曲は、のちにハンス・フォン・ビューローやフェリックス・ワインガルトナーが「交響詩」にたとえているように、「標題音楽」とも呼びうる性格を有している。音楽外の素材を音楽の中へと取り込むという、まさにドイツ・ロマン主義の作曲家たちが対峙した問題意識に率先して取り組んだメンデルスゾーンの成果を、じっくり堪能したい。

メンデルスゾーン

「夏の夜の夢」の音楽 —「序曲」「夜想曲」「スケルツォ」「結婚行進曲」

メンデルスゾーンは、哲学者の祖父モーゼスと銀行家の父アブラハムのもと、裕福なユダヤ教の血筋に生まれた。生まれはハンブルク、育ちはベルリンで、幼少期から英才教育を受け、音楽のみならず美術や文学の才能も示したことはよく知られている。1816年にはドイツ社会に同化しやすいようキリスト教(プロテスタント)へと改宗し、それ以来、元々のユダヤ系の姓「メンデルスゾーン」にドイツ系の「バルトルディ」を併記した。

ベルリンという土壌は、彼の思考や音楽性に大きな影響を及ぼしたように思われる。ベルリンは当時プロイセン王国の首都であり、宗教としてはプロテスタントが支配的であった。ヨハン・セバスティアン・バッハの《マタイ受難曲》もプロテスタントの典礼のために書かれたものであり、この作品の復活上演をメンデルスゾーンが1829年に最初に実現させたのもベルリンである。彼は、初期ベルリン・リート楽派として有名なカール・フリードリヒ・ツェルターに作曲を師事してバッハなど過去の作曲家の作品も指南され、その紹介でヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテと親交したり、大学ではゲオルク・ヴィルヘルム・フリードリヒ・ヘーゲルの講義を受けたりしている。ゲーテやヘーゲルが、ウィーンを拠点に活躍した当時の前衛ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェンの音楽と距離を取る立場であったことは、保守的で伝統を重んじるドイツ北部の土地柄を象徴するようだ。しかしメンデルスゾーンは優れたバランス感覚を持ち合わせていたのだろう。ベートーヴェンの音楽に通じていたのはもちろん、同時代のジャン・パウルの文学も好むなど、伝統と革新をうまく融合させ、彼のスタイルを確立していったと考えられる。

《夏の夜の夢》は、まず演奏会用序曲として1826年夏に成立した。当時メンデルスゾーンは弱冠17歳、同名のシェークスピア喜劇を鑑賞したあとに作曲し、独立した作品として「作品21」を与え、1835年に出版している。そして1842年、プロイセン国王にポツダムの新宮殿のための劇音楽を委嘱されたことから、作曲家はすでに書いた序曲に12

の劇中曲を付け加え、劇付随音楽を作り上げた。序曲の素材が曲全体に散りばめられていることを考えると、青年メンデルスゾーンの才能に目をみはるばかりである。

『夏の夜の夢』は言わずと知れたウィリアム・シェークスピアの代表作である。アテネ近くの森を舞台に、夏至祭前夜の狂気の沙汰をテーマとした夢幻劇で、4人の青年男女の恋愛関係のもつれが妖精の惚れ薬によって更にこじれるドタバタ劇が繰り広げられる。

〈序曲〉は先述のように単独で成立したが、さながら劇全体の縮図となっている。木管による魔法のような4つの和音で幕を開けると、スケルツォを先取りするかのような夜の森の情景が広がり、結婚식을暗示する堂々とした祝典音楽やクラリネットによる愛の主題が続く。

〈夜想曲〉は第3幕と第4幕の間に演奏される曲で、静かで満ち足りた森の夜にホルンとファゴットが歌っているかのようなようである。

〈スケルツォ〉は第1幕の後、妖精たちが登場する場面で演奏される。4小節単位で一定のリズム形を用いるスケルツォに典型的な特徴が、軽やかな妖精たちの曲調と見事に合致している。

〈結婚行進曲〉は、2組の青年男女が晴れて結婚式を挙げる第5幕への導入を担う。トランペットのファンファーレに始まる音楽は、現在でも広く親しまれている。

作曲年代	[序曲]1826年夏 [劇付随音楽]1842～1843年
初演	[序曲]1827年2月20日、シュチェチン [劇付随音楽]1843年10月14日、ポツダム
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、シンバル、弦楽

メンデルスゾーン

交響曲 第5番 二短調 作品107「宗教改革」

この作品は、フィリップ・メランヒトンが起草したルター派教会最初の信仰個条「アウグスブルクの信仰告白」の300周年を記念する宗教改革祭(1830年)のため、委嘱を期待してメンデルスゾーンが作曲したものである。結果として委嘱はなされなかったものの、作曲者は何度も上演の機会を探った。しかし「宗教改革祭のための交響曲」として本人の指揮で取り上げた公開初演(1832年)でも、デュッセルドルフでの再演(1837年)でも芳しい評価は得られず、本人が「燃やしてしまいたい」とお蔵入りにしてしまった。ゆえに、2番目に作曲された交響曲ではあるが、没後の1868年に出版されたために出版順から「第5番」となった。

この交響曲は、宗教的モチーフで溢れている。キリスト教のミサの冒頭で「またあなたの霊とともに」という言葉に付けて歌われる、いわゆる「ドレスデン・アーメン」で始ま

り、ルター作のコラール《神はわがやぐら》で締めくられるのだ。作曲者自身のプロテスタントとしての「信仰告白」とも捉えられよう。

フィナーレにコラールを用いるという構想を実現する際、ベートーヴェンの《第九交響曲》はひとつの参照点であったに違いない。ニ短調の第1楽章からニ長調の第4楽章へと至る構成は、一見すると「苦悩から歓喜へ」に当てはまるようだ。だが、本作において第1楽章はニ長調の序奏で始まり、第2楽章は変ロ長調とト長調、第3楽章はト短調を取るため、ニ短調は第1楽章の主部にとどまっている。闇から光へと一直線に進むわけではない調の多彩さは、多分にロマン主義的である。

第1楽章は、宗教的な装いの序奏に、ソナタ形式による主部(第1主題部:ニ短調/第2主題部:イ長調)が続く。「ドレスデン・アーメン」は明確な形では2回現れ、提示部と再現部を導入する役割を担う。

第2楽章は、スケルツォのように軽快な主部(変ロ長調)と、田園風のトリオ部(ト長調)からなる。冒頭主題は、第4楽章の第2主題と呼応する。

第3楽章は、哀歌調のコンパクトな緩徐楽章。ト短調を取り、続くト長調のコラールを導く役割も果たす。

第4楽章は、コラール《神はわがやぐら》による序奏に続き、快活な主部がニ長調で提示される。この楽章にはコントラファゴットとセルパンが付け加えられ、劇音楽や教会音楽の性格が補強されるのも特徴的だ(今回の編成にはセルパンは含まれない)。コラール主題は変形して何度も顔を見せ、曲の最後に強奏のトゥッティで回帰することで輝かしく締めくくる。

作曲年代	1829～1830年、1832年改訂
初演	[公開初演]1832年11月15日、ベルリン
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽

並外れた音楽的才能を、惜しみなく世界に注いだ

フェリックス・ メンデルスゾーン・ バルトルディ

Felix Mendelssohn-Bartholdy (1809–1847)

神童として早くから才能をあらわし、交響曲やヴァイオリン協奏曲、無言歌など、数多の美しい名曲を生んだメンデルスゾーン。その活躍は作曲だけにとどまらない。20歳にしてバッハの《マタイ受難曲》を指揮して演奏会を大成

功へと導き、当時忘れられかけていたバッハの復興へとつなげた。26歳でライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の楽長に就任すると、過去の名曲の演奏機会を増やすなど、現代のクラシック音楽界にもつながる数々の偉業を成し遂げた。34歳にはライプツィヒ音楽院の創設を実現するも、38歳で早世した。

C
2024, MAY
[第2011回]



宗教的アイデンティティ

父方の祖父はユダヤ人の高名な哲学者だったが、当時はユダヤ人への迫害も強く、父の代でユダヤ教からキリスト教へと改宗、メンデルスゾーンも7歳の時に洗礼を受けている。しかし、世間からの風当たりは変わらなかったという。メンデルスゾーンは《宗教改革》のほかにオラトリオ《聖パウロ》も作曲しているが、同じくユダヤ人でイエスを支えたキリスト教の使徒、聖パウロへの共感もあったにちがいない。

聖パウロに扮するメンデルスゾーンさま
神々しきは永遠に
イラストレーション: ©IKE

N響百年史

第四十六回 儂くも美しく燃え

片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK-FM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしても馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。ポスト近衛秀麿を模索する新交響楽団に颯爽と現れた俊英、貴志康一。その閃光のような活躍はいかなるものだったのでしょうか。

貴志康一、登場

ドイツ帰りの青年指揮者、貴志康一。彼こそ、自分たちが近衛秀麿を事実上追放した後を埋めて、オーケストラを人気の面でも実力の面でもさらに先へ先へと連れていってくれるかもしれない——そう新交響楽団がとりあえずは期待してみたい新星だった。まずは“お試し”をしてみたい。実力を計りたい。相性をみたい。かくて貴志の記念すべき「新交響楽団デビュー」は、大金持ちの貴志がオーケストラを雇って指揮リサイタルを開くかたちで、1935(昭和10)年11月26日、日本青年館で行われた。名付けて「第1回貴志康一演奏会」である。曲目は、ベートーヴェンの《「コロオラン」序曲》に始まり、チャイコフスキーの《交響曲第6番「悲愴」》、シューベルトの《交響曲第7番「未完成」》を並べ、ワーグナーの《楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」》第1幕への前奏曲で締める。いずれもおなじみの曲ばかりである。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団との自作自演コンサートを高く評価されて、それを勲しとする貴志だけでなく、指揮者としての実力を評論家もファンも初めて聴く曲目では判断しにくい。そのことを貴志はよくわかっていた。誰もが知る名曲ばかりで勝負に出た。オーケストラも手慣れている曲目なので演奏に間違えが起りにくい。しかも近衛が得意としたものをわざと多く選んでいる。聴き比べてもらおうとする意図がありあり。貴志はいきなり勝負に出た。

結果はどうだったか。夏の新交響楽団の無指揮者演奏会を絶賛し、オーケストラが近衛と最終的に訣別する背中を大いに押した作曲家、深井史郎は、新聞評でまたも褒めに褒めた。「われわれはこの会に於て、われわれの世界

にはじめて指揮者らしい指揮者を得たことを大いに祝福すべきである」。深井によれば山田耕筰はもちろん、近衛すらも「指揮者らしい指揮者」ではなかったということだろう。何がそこまでよかったというのか。「これ程の表情力をもつて楽員を牽引しながら、しかも音楽のリズムを極めて正確に保ち得たのは彼の指揮の技術の卓越さを物語る以外の何ものでもない」。褒め言葉のキは「表情」と「リズム」だ。貴志はこの演奏会で近衛の使っていたのよりも広い指揮台を用い、きわめて派手なジェスチャーで、踊るような身振りで、びしばしと棒を動かし、オーケストラの各パートに細かく指示を出し、濃密なニュアンスも与え続けていたという。ストコフスキーのようでもあり、フルトヴェングラーのようでもあったという。とにかく近衛と見栄えがまったく違ったようだ。

作曲家、諸井三郎も東京朝日新聞にこう書いた。「貴志氏は豊かな才能に恵まれ且かつ雰囲気を持った指揮者で、従来の日本に存する音楽的傾向と異なるものを示して居る」。諸井も深井ほど手放しではないが新しいタレントの出現を認めている。どこが「従来」と異なると、諸井は見たのか。「氏は指揮の重点をリズムの明確性と表現の力学性に置いている」。キーワードは「リズム」と「表現」。「表現の力学性」とは深井の言う「表情力」とかなり重なるだろう。派手でリズムックで濃厚ということだ。

期待と批判

新交響楽団は予感が当たったと思った。貴志はスター性と音楽性を兼ね備えている。いけるのではないか。すぐに大きな定期公演(当時は予約演奏会)を任せることにした。1936(昭和

11)年2月19日の第164回だ。ベートーヴェンの《交響曲第9番「合唱つき」》をやることにしていた。近衛と訣別して出直している最中のオーケストラの心意気を派手に示したい。誰に振ってもらうか。ここは新スターでなければならない。貴志に白羽の矢が立った。その《第9》の16日前の2月3日には貴志が新交響楽団を買いきって行く「第2回貴志康一演奏会」も同じ日比谷公会堂で予定されていた。11月と2月の、合わせて3つの演奏会で、ポップ・ステップ・ジャンプをきれいに決めたい。そしてコンビとして固まりたい。指揮者とオーケストラの内なる希望であったろう。第2回のプログラムは第1回とは趣向が違った。モーツァルトの《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》にベートーヴェンの《交響曲第7番》。ここまでは古典派名曲プロ。が、そのあとに第1回では控えた自作をボリュームたっぷりに入れる。《日本組曲》から〈花見〉と〈祈り〉と〈道頓堀〉。それに関種子を独唱者に迎えて管弦楽伴奏歌曲を、《富士山》や《駕籠かき》などいくつか。そして最後はラヴェルの《ボレロ》。

反響は? 11月のようにはゆかなかった。ラヴェルの《ボレロ》では管楽器の独奏でのミスが続出したらしい。それもあってどうも印象が悪くなった。悪い批評も出た。諸井三郎が再び東京朝日新聞に書いた演奏会評の見出しに至っては「内容空疎なる指揮」。まるで救いがない。中身も熾烈だ。「貴志氏は今回の指揮に於て氏の持つ欠陥を遺憾なく暴露して吾の期待を裏切つた。氏は極めて感傷的回顧的にして且内容空疎なる自作品を指揮するのと同様の態度を以て全曲目を演奏した。これは明らかに誤謬である」。諸井は貴志の解釈が主情的・主意的にすぎ、客観的な楽曲分析をないがしろにしているので、そのモーツァルトやベートーヴェンは聴くに堪えぬと言う。「古典

的傾向顯著なる音楽に関しては全然失敗している」。さらに言う。「表現力学は部分部分に於て個別的になされ楽曲全体なり一楽章全体なりを統一的に表現する持続がない」。そのうえ、作曲家としての諸井は同業の貴志の作品をまったく買わない。「内容空疎」な作品しか書けない作曲家は古典派の楽曲のアナリーゼもろくにできないのだろうと見下す調子だ。とにかく貴志の作品には有機性がない。音楽を「統一的に表現する持続」がない。諸井は論難の度合いを容赦なく高めてゆく。「斯様な欠点は氏の作品にもよく現われて居る。例えばアダチオからアレグロへの推移は唐突に行われ、そこには聴く者をして首肯せしめるだけの音楽的構成はない。それは恰も寄木細工の如きものである」。そして諸井はダメを押す。「最後のポロロに於ては指揮者も管絃楽も全然失敗であつた。現在の新響の能力を超えた曲目を発表する冒険は慎重に避けねばならぬ」。諸井は文章を警告で閉じる。「『第九交響曲』の画期的演奏を前にして、指揮者並に新響に対して深き反省を促したい」。

貴志と新交響楽団の前途に暗雲が垂れ込めた。2月3日から16日後の定期公演ははたして大丈夫か。しかし《ポロロ》でこけたくらいでは新スターへの聴衆の期待は失速しなかった。貴志の作品が楽しく好ましいと思う音楽ファンだって、もちろんいっぱいいた。それになしる《第9》である。期待は高まる。

天才、忽然と消ゆ

チケットはよく売れた。独唱者は、中村淑子、柳兼子、奥田良三、矢田部勁吉と揃った。合唱は武蔵野音楽学校。大成功した！ 評論家、

山根銀二は東京日日新聞に書いた。「此の公演が新響改組以来の最も充実した演奏会であり、又我が第九上演史の上に画期的な足跡を残した事は疑の無いところであらう」。こう続く。「中でも第三楽章アダチオの出来栄は特に素晴らしい。又第二楽章スケルツォは細部の粗雑さと線の太い悪魔的な感覚の稀薄な為に感銘を弱めてみたとはいへ、従来わが国で行はれた精彩の無い演奏を遙かに凌駕するものであつた」。山根は演奏技量に「飛躍の成長」が認められるとして新交響楽団への称賛を惜しまない。が、いちばんの手柄は指揮者に帰せられる。山根の貴志への評価はこうだ。「かれは今日迄の最も才能ある指揮者である。殊にその表現の精力的な豊饒さと決断性は従来水準を遠く抜いてゐる」。『従来わが国で行はれた精彩の無い演奏』を貴志と新交響楽団は超克したのだ。こうして山根は貴志にポスト近衛の折紙をつけた。

では、2月3日の演奏会を聴いて貴志を否定した諸井は2月19日をどう評したか。山根の文章が東京日日新聞に掲載されたのは2月21日だが、諸井の評は同日（その日は、二・二六事件と呼ばれる陸軍の一部によるクーデター未遂の大騒動が勃発する5日前だ）に、やはり東京朝日新聞に掲載された。彼は手のひらを返した。「当夜の出来栄は現在の日本として聞き得られる殆ど最高の『第九』演奏であつた。貴志氏は去る三日の発表会に於て示した危期を殆んど完全に乗り越えて今や新しい立場を把握しつつある。氏は管絃楽、独唱者及び合唱に対し、統一的表現を与へ、演奏全体を自己の思ふ所に導いて行つた」。諸井によれば演奏は16日前と違つてすこぶる「有機的」に繰り広げられた。「独唱者と合唱は何れも熱心に歌つて居り殊に四人の独唱者が有機的に結び付けられて居た点は成

功である。管絃樂も指揮者の意図に鋭敏に反応して行つたのみならず、自身の内から湧きだして来る積極的な力を示して居り、且各楽器群の音色は何れも美しかった」。同じ批評家の同じ演奏家に対する批評が半月でここまで変わってよいものかというほどのものである。

山根や諸井だけではない。マーラーの弟子の指揮者兼作曲家、クラウス・プリングスハイムはこう書いた。「私は東京で、指揮者貴志康一による第一流の演奏会を聴いた。そしてこの日本で、一人の最高級の指揮の天才者が完成されつつあるという考は、いまや私の疑を挿まないとこである。若かりし頃のワインガルトナーが管絃樂團及び聴衆を魅了し去つたさまは、恐らく貴志康一が彼の生涯中初めてベートーフェンの第九に自己の力倆を示したさまにも彷彿たるものがあつたであらう」。プリングスハイムの熱量は上がっていく。「合唱団及び管絃樂團は一しよになつて魂を奪われた。日比谷公会堂の溢るばかりの聴衆もまた一しよになつて魂を奪われた。此の演奏会は絶対的に日本人の力で演奏されたものであつた。そして此の演奏会は若い日本の指揮者貴志康一のお蔭で私が終生忘れることのできない日本音楽生活に於ける超特別の出来事だつたのである」

この文章は演奏会直後の作ではない。月刊誌『音楽世界』の1937(昭和12)年7月号に掲載されている。《第9》の成功から1年半を経ている。プリングスハイムはこのとき滞日生活をいったん終わらせ、タイに移ろうとしていて、東京での音楽体験の最良のものとして貴志の《第9》

を取り上げたのだ。その頃、貴志は新交響樂團との黄金時代を築き上げていただろうか。そんなことはなかった。貴志は1936(昭和11)年2月の《第9》に続いて4月22日の第166回定期にも登場して、ウィルヘルム・ケンプとモーツァルトの《ピアノ協奏曲第21番》やベートーヴェンの同じく《第4番》を共演し、ケンプからも絶賛された。貴志が新交響樂團に然るべき立場を得るのは目前かとも思われた。

が、6月に病に倒れた。新交響樂團を指揮して諸井三郎のピアノ協奏曲と箕作秋吉の小交響曲と山田耕筰の《交響曲「明治頌歌」》を取り上げる演奏会が目前だった。盲腸炎をこじらせたと診断され、手術を受けたが、治らなかった。1年半に及ぶ療養も実らず、1937(昭和12)年11月17日に大阪で没する。小澤征爾が1961(昭和36)年にNHK交響樂團と蜜月時代を過ごしたが、指揮者とオーケストラとの「意思の疎通を欠」いたがゆえに(『NHK交響樂團五十年史』での表現)、ほんの数か月で離別に至つたのは、小澤の25歳から26歳にかけての時期であつたが、貴志の新交響樂團との約半年間は貴志の26歳から27歳にかけてであつた。世は儂し。

文 | 片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』ほか著書多数。

2024年6月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

20世紀以降の音楽史を方向づけた3人の作曲家、スクリャービン、ドビュッシー、シェーンベルク。世界を変えるイノベーションは、どのようにしてもたらされるのか。そんなことに思いを馳せたくなる6月のプログラムである。登場する日本の若手指揮者3人も、音楽界の未来を切り開く存在として、ますます注目を集めている。

原田慶太楼と反田恭平が紡ぐ スクリャービンの豊饒でロマンあふれる世界

[Aプログラム]の原田慶太楼にとって、スクリャービンは「流行に惑わされず、アイデンティティを大切に、ユニークな作曲家」である。その音楽は「熟れすぎて官能的な芳香を放つ」。師のアレンスキーが彼を落第させ、《交響曲第2番》の初演を酷評したのも、規範を逸脱した“過剰さ”のせいかもしれない。だが逆に、それがスクリャービンの魅力でもある。この曲でも、後期ロマン派を凌駕するかのような豊饒なサウンドが、我々を圧倒する。

最初期のオーケストラ作品、《ピアノ協奏曲》は、マズルカやポロネーズのリズムを含み、夢見るような叙情性をたたえている点で、ショパンの影響が明らかだ。ラフマニノフを思わせる、スケールの大きなロマンティズムにも事欠

かない。ワルシャワやモスクワで学んだ反田恭平が惹かれたのも自然な流れだろう。「前々から弾きたかった曲なので、非常に楽しみ」と語る人気ピアニスト・反田によって、知られざる傑作の認知度が一気に高まりそうだ。

沖澤のどかの繊細な感性が描く 20世紀フランス音楽の色彩と陰影

[Cプログラム]では、沖澤のどかが20世紀フランス音楽に焦点を当てる。音色の配合に繊細な感性を示す彼女の個性が十分に発揮されるはずだ。

海軍士官でもあったイベールは、見聞した異国の風物を《寄港地》に描いた。タランテラ舞曲、アラビア風の音階、スペインの熱狂的な祭り。濃淡さまざまな色彩のヴァリエーションが味わえる1曲である。

伝統的な協奏曲の様式に、流行のジャズをいかに融合させるかが、《左手のためのピアノ協奏曲》におけるラヴェルの探求テーマだった。デニス・コジュヒンはこの曲のソリストとして、今もっとも旬のひとり。左手だけとは思えない壮麗なカデンツァは圧倒的だ。

白みを帯びた灰色の雲のうごめき、閃光のような祭りのリズム、月明かりの波間に響く海の

精の歌声……。ドビュッシーは《夜想曲》で、想像力の翼を羽ばたかせた。どの曲にも“光”の印象と効果が伴い、絵画的シーンが眼前に広がる。だが単なる情景描写ではなく、聴き手は過ぎ去りゆくものの幻影を意識せずにいられない。20世紀最初の年に初演されたこの曲は、次の世代に大きな影響を与えた。

鈴木優人とひも解く

ウィーン伝統が育んだ多層的な音楽世界

[Bプログラム]は生誕150年のシェーンベルクを軸とする。十二音技法はアグレッシブな挑戦というより、親密なサークルの自由な実験の過程で生まれたのではないかと、鈴木優人は考える。そんな空気を育んだウィーン伝統を意識しつつ、曲を構成する。

《ヴァイオリン協奏曲》は、十二音技法で書かれた音楽の最高峰のひとつ。世界トップクラ

スのソリスト、イザベル・ファウストが、史上屈指の難曲に挑む。

バロック時代の変奏形式を用いた《パッサカリア》と、バッハの《音楽のささげもの》を編曲した《リチエルカータ》は、創作年代に隔たりがあるものの、ウェーベルンのキャリアにおいて対をなす作品。新ウィーン楽派は、明らかに過去の遺産から生まれたのだ。

さかのぼること1世紀、シューベルトは同じウィーンの街に暮らした。彼の作品の多くは、親しい友人や家族との交わりの中で生まれたものだ。《交響曲第5番》もそのひとつ。優美で生き生きとした曲調は、モーツァルトに例えられる。シューベルトの自由な創作環境は、形を変えて後世のウィーンに受け継がれることになった。

[西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹]

A 6/8 土
6:00pm
6/9 日
2:00pm
NHKホール

スクリャービン／夢 作品24
スクリャービン／ピアノ協奏曲 嬰へ短調 作品20
スクリャービン／交響曲 第2番 ハ短調 作品29
指揮：原田慶太様
ピアノ：反田恭平



B 6/19 水
7:00pm
6/20 木
7:00pm
サントリーホール

ウェーベルン／パッサカリア 作品1
シェーンベルク／ヴァイオリン協奏曲 作品36
バッハ(ウェーベルン編)／リチエルカータ
シューベルト／交響曲 第5番 変ロ長調 D. 485
指揮：鈴木優人
ヴァイオリン：イザベル・ファウスト



C 6/14 金
7:30pm
6/15 土
2:00pm
NHKホール

イベル／寄港地
ラヴェル／左手のためのピアノ協奏曲 二長調
ドビュッシー／夜想曲＊
指揮：沖澤のどか
ピアノ：デニス・コジュヒン
女声合唱：東京混声合唱団＊



チケットのご案内(定期公演 2023年9月～2024年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～27%お得です！(割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	販売終了
	シーズン会員券(Winter)	販売終了
	シーズン会員券(Spring)	販売終了

料金(税込)

券種		S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
年間 会員券 (9回)	Aプログラム	¥69,300 (¥7,700)	¥58,050 (¥6,450)	¥45,090 (¥5,010)	¥36,720 (¥4,080)	¥28,800 (¥3,200)	¥8,100 (¥900)
	Bプログラム	¥74,970 (¥8,330)	¥64,260 (¥7,140)	¥51,255 (¥5,695)	¥41,310 (¥4,590)	¥33,660 (¥3,740)	¥9,720 (¥1,080)
	Cプログラム	¥57,780 (¥6,420)	¥50,760 (¥5,640)	¥40,500 (¥4,500)	¥32,760 (¥3,640)	¥25,020 (¥2,780)	¥7,200 (¥800)

券種		S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
シーズン 会員券 (3回)	Aプログラム	¥24,360 (¥8,120)	¥20,310 (¥6,770)	¥15,870 (¥5,290)	¥12,870 (¥4,290)	¥10,140 (¥3,380)	¥3,300 (¥1,100)
	Cプログラム	¥20,340 (¥6,780)	¥17,910 (¥5,970)	¥14,250 (¥4,750)	¥11,520 (¥3,840)	¥8,790 (¥2,930)	¥3,000 (¥1,000)

()内は1公演あたりの単価

※本シーズンより定期会員券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます(A・Cプログラムのユースチケット定期会員券[D席]料金に変更はありません)。

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日	5・6月	発売中
-------	------	-----

※本シーズンより1回券の料金を改定させていただきます(E席、ユースチケットをのぞく)。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

※[WEBセレクト3+]の販売は前シーズンをもって終了いたしました。

ユースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。1回券はすべての券種で一般料金から50%以上お得にお買い求めいただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

お申し込み	WEBチケットN響	https://nhkso.pia.jp	
	N響ガイド TEL 0570-02-9502		<ul style="list-style-type: none">●主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業●発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on     

N響ニュースレター | 最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

2023-24定期公演プログラム

A NHKホール 開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm	B サントリーホール 開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm	C NHKホール 開場6:30pm 開演7:30pm 開場1:00pm 開演2:00pm
---	---	---

2024 05	A 第2010回 5/11 [土] 6:00pm 5/12 [日] 2:00pm NHKホール	眼前に蘇る古今のローマの情景 そして人々の息遣い バンフィリ／戦いに生きて【日本初演】 レスピーギ／交響詩「ローマの松」 レスピーギ／交響詩「ローマの噴水」 レスピーギ／交響詩「ローマの祭り」 指揮：ファビオ・ルイージ ※当初発表の曲順から変更となりました。	一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥5,400 D ¥4,400 E ¥2,800	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800 E ¥1,400
	B 第2012回 5/22 [水] 7:00pm 5/23 [木] 7:00pm サントリーホール	デンマーク国立響のシェフ ルイージがN響でニルセンを初披露 ブラームス／ピアノ協奏曲 第1番 二短調 作品15 ニルセン／交響曲 第2番 口短調 作品16「4つの気質」 指揮：ファビオ・ルイージ ピアノ：ルドルフ・フリンダー	一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥5,400 D ¥4,400	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800
	C 第2011回 5/17 [金] 7:30pm 5/18 [土] 2:00pm NHKホール	ルイージ&N響のメンデルスゾーン第2弾《夏の夜の夢》&《宗教改革》 メンデルスゾーン／「夏の夜の夢」の音楽 —「序曲」「夜想曲」「スケルツォ」「結婚行進曲」 メンデルスゾーン／交響曲 第5番 二短調 作品107「宗教改革」 指揮：ファビオ・ルイージ	一般 S ¥7,600 A ¥6,700 B ¥5,300 C ¥4,300 D ¥3,300 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800
2024 06	A 第2013回 6/8 [土] 6:00pm 6/9 [日] 2:00pm NHKホール	盟友 原田と反田が誘う魅力あふれるスクリャービンの世界 スクリャービン／夢想 作品24 スクリャービン／ピアノ協奏曲 嬰へ短調 作品20 スクリャービン／交響曲 第2番 ハ短調 作品29 指揮：原田慶太楼 ピアノ：反田恭平	一般 S ¥9,100 A ¥7,600 B ¥5,900 C ¥4,800 D ¥3,800 E ¥2,000	ユースチケット S ¥4,000 A ¥3,500 B ¥2,800 C ¥2,100 D ¥1,500 E ¥1,000
	B 第2015回 6/19 [水] 7:00pm 6/20 [木] 7:00pm サントリーホール	楽都ウィーンで生まれた古今の傑作を鈴木優人のタクトで聴く ウェーベルン／バッサカリア 作品1 シェーンベルク／ヴァイオリン協奏曲 作品36 バッハ(ウェーベルン編)／リチエルカータ シューベルト／交響曲 第5番 変ロ長調 D. 485 指揮：鈴木優人 ヴァイオリン：イザベル・ファウスト	一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥5,400 D ¥4,400	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800
	C 第2014回 6/14 [金] 7:30pm 6/15 [土] 2:00pm NHKホール	定期初登場 沖澤のどかと臨む エスプリ溢れるフランス・プログラム イベール／寄港地 ラヴェル／左手のためのピアノ協奏曲 二長調 ドビュッシー／夜想曲* 指揮：沖澤のどか ピアノ：デニス・コジュビン 女声合唱：東京混声合唱団*	一般 S ¥7,600 A ¥6,700 B ¥5,300 C ¥4,300 D ¥3,300 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

Cプログラムについて	・休憩のない、60～80分程度の公演となります。 ・N響メンバーによる「開演前の室内楽」を舞台上で開催します(1日目:6:45pm～/2日目:1:15pm～)。
-------------------	---

2024-25シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

A

最高峰の指揮者、ソリストたちと本格的作品を贈るプログラム。オーケストラ音楽の醍醐味を存分に味わう。

NHKホール

± 6:00pm 日 2:00pm

Autumn

2024

09 September

第2016回

9/14 ± 6:00pm

9/15 日 2:00pm

ブルックナー芸術の金字塔《第8番》で新シーズン開幕

ブルックナー生誕200年

ブルックナー／交響曲 第8番 ハ短調(初稿/1887年)

指揮:ファビオ・ルイージ



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2024

10 October

第2020回

10/19 ± 6:00pm

10/20 日 2:00pm

オネゲルとブラームスの暗き情熱の渦に身をゆだねる

オネゲル／交響曲 第3番「礼拝」

ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2024

11 November

第2022回

11/9 ± 6:00pm

11/10 日 2:00pm

山田和樹 \響定期に凱旋! お家芸のレパートリーを披露

ルーセル／バレエ音楽「バックスとアリアーヌ」作品43

—組曲 第1番

バルトーク／ピアノ協奏曲 第3番

ラヴェル／優雅で感傷的なワルツ

ドビュッシー／管弦楽のための「映像」—「イベリア」

指揮:山田和樹

ピアノ:フランチェスコ・ビエモンテージ



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

Winter

2024

12 December

第2025回

11/30 ± 6:00pm

12/1 日 2:00pm

ドイツ・ロマン主義の覆郁たる香気に包まれる

シェーンベルク生誕150年

ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」

—「前奏曲と愛の死」

R. シュトラウス／「ばらの花輪」作品36-1*、

「なつかしいおもかげ」作品48-1*、

「森の喜び」作品49-1*、「心安らかに」作品39-4*、

「あすの朝」作品27-4*

シェーンベルク／交響詩「ペレアスとメリザンド」作品5

指揮:ファビオ・ルイージ ソプラノ:クリスティアーネ・カルク*



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

*12月定期公演Aプログラム1日目は11月に開催いたします。

2025
01 January
第2028回
1/18 土 6:00pm
1/19 日 2:00pm

ソビエフが「レニングラード交響曲」に
万感の思いを込める
ショスタコーヴィチ／
交響曲 第7番 八長調 作品60「レニングラード」
指揮:トウガン・ソビエフ



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2025
02 February
第2031回
2/8 土 6:00pm
2/9 日 2:00pm

チェコが生んだ新時代の巨匠ボベルカが、響デビュー
ツェムリンスキー／シムフォニエッタ 作品23
R. シュトラウス／ホルン協奏曲 第1番 変ホ長調 作品11
ドヴォルザーク／交響詩「のぼと」作品110
ヤナーチェク／シムフォニエッタ
指揮:ペトル・ボベルカ
ホルン:ラデク・ハボラーク



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

Spring

2025
04 April
第2034回
4/12 土 6:00pm
4/13 日 2:00pm

ベルリオーズとプロコフィエフ
通底するテーマは「さすらいの人」
ベルリオーズ／交響曲「イタリアのハロルド」*
プロコフィエフ／交響曲 第4番 八長調
作品112(改訂版/1947年)
指揮:パーヴォ・ヤルヴィ
ヴァオラ:アントワーン・タメスティ*



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2025
05 May
第2036回
4/26 土 6:00pm
4/27 日 2:00pm

ヨーロッパ公演に先駆け
勝負曲を定期公演で披露
マーラー・フェスティバル2025 演奏曲
マーラー／交響曲 第3番 二短調
指揮:ファビオ・ルイーゼ
メゾ・ソプラノ:オレシア・ベトロヴァ
女声合唱:東京オペラシンガーズ
児童合唱:NHK東京児童合唱団



一般	ユースチケット
S ¥15,000	S ¥7,000
A ¥12,500	A ¥6,000
B ¥10,000	B ¥5,000
C ¥8,000	C ¥4,000
D ¥6,500	D ¥3,000
E ¥4,500	E ¥2,000

2025
06 June
第2039回
6/7 土 6:00pm
6/8 日 2:00pm

巨匠が魂を込めて振る
チャイコフスキー最後の交響曲
リムスキー・コルサコフ／歌劇「5月の夜」序曲
ラフマニノフ／バガニニの主題による狂詩曲
作品43*
チャイコフスキー／交響曲 第6番 口短調
作品74「悲愴」
指揮:ウラディーミル・フェドセーエフ
ピアノ:ユリアナ・アヴデーエワ*



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回)	一般	S ¥76,500	A ¥65,025	B ¥49,725	C ¥41,310	D ¥32,895
	ユースチケット	S ¥38,250	A ¥30,600	B ¥23,715	C ¥19,503	D ¥11,475
シーズン会員券(3回)	一般	S ¥26,850	A ¥22,824	B ¥17,454	C ¥14,499	D ¥11,547
	ユースチケット	S ¥13,425	A ¥10,740	B ¥8,325	C ¥6,849	D ¥4,029

2024-25シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

B

豊かな響きのサントリーホールで味わう名匠たちの音作り。
豪華なソリストたちの至芸にも期待。

サントリーホール | 木 7:00pm 金 7:00pm

※本シーズンより日程を「木曜7:00pm/金曜7:00pm」に変更させていただきます。

現在水曜日の定期会員の方は2024-25シーズンでは木曜日に、現在木曜日の方は金曜日に現在と同じ座席をご用意します。該当する定期会員の方への詳しいご案内は、2024-25シーズンの定期会員券更新手続きの際にお知らせします。

Autumn

2024

09

September

第2017回

9/19

木 7:00pm

9/20

金 7:00pm

ルイーゼと遡る ドイツ・オーストリア 王道の系譜

シューベルト/イタリア風序曲 第2番 八長調 D. 591

シューマン/ピアノ協奏曲 イ短調 作品54

ベートーヴェン/交響曲 第7番 イ長調 作品92

指揮:ファビオ・ルイーゼ

ピアノ:エレース・グリモ



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2024

10

October

第2019回

10/10

木 7:00pm

10/11

金 7:00pm

プロムシュテットが贈る北欧音楽の花束

シベリウス/交響詩「4つの伝説」作品22

—「トゥオネラの白鳥」

ニルゼン/クラリネット協奏曲 作品57

ベルワルド/交響曲 第4番 変ホ長調「ナイーヴ」

指揮:ヘルベルト・プロムシュテット

クラリネット:伊藤 圭(N響首席クラリネット奏者)



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2024

11

November

第2024回

11/21

木 7:00pm

11/22

金 7:00pm

透徹した音楽性が際立つスロボデニューク

母国ロシアの作品で定期初登場

チャイコフスキー/ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35

プロコフィエフ/バレエ音楽「石の花」

—「銅山の女王」「結婚組曲」

ストラヴィンスキー/3楽章の交響曲

指揮:ディマ・スロボデニューク

ヴァイオリン:ニキータ・ボリソグレブスキー



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

Winter

2024

12

December

第2026回

12/5

木 7:00pm

12/6

金 7:00pm

ルイーゼが屈指の名曲で掘り起こす スラヴ音楽の魅力

スメタナ/歌劇「売られた花嫁」序曲

ラフマニノフ/ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30

ムソルグスキー(ラヴェル編)/組曲「展覧会の絵」

指揮:ファビオ・ルイーゼ

ピアノ:ネルソン・ゲルナー



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2025

01

January

第2030回

1/30 木 7:00pm

1/31 金 7:00pm

音の魔術師のタクトが紡ぎだす
東欧の情緒に身をゆだねるムソルグスキー(リャードフ編)／
歌劇「ソロチンスクの市」―「序曲」「ゴバック」
バルトーク／ヴァイオリン協奏曲 第2番
ドヴォルザーク／交響曲 第8番ト長調 作品88指揮：トウガン・ヒエフ
ヴァイオリン：郷古 廉(N響第1コンサートマスター)

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2025

02

February

第2032回

2/13 木 7:00pm

2/14 金 7:00pm

世界の音楽界が熱視線を注ぐ
若き巨匠によるドイツ・プログラムモーツァルト／アリア「私は行く、だがどこへ」K. 583*、
アリア「大いなる魂と高貴な心は」K. 578*、
交響曲 第25番ト短調 K. 183、レチタティーヴォと
アリア「私のうろわしい恋人よ、さようなら
―とどまって下さい、ああいとしい人よ」K. 528*
シューマン／交響曲 第1番変ロ長調 作品38「春」

指揮：ペトル・ポベルカ メゾ・ソプラノ：エマ・ニコロフスカ*



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

Spring

2025

04

April

第2035回

4/17 木 7:00pm

4/18 金 7:00pm

《春の祭典》に続きパーヴォ&N響が増る
ストラヴィンスキー三大バレエ第2弾ストラヴィンスキー／バレエ音楽「ペトルーシカ」
(全曲／1947年版)
ブリテン／ピアノ協奏曲 作品13
プロコフィエフ／交響組曲「3つのオレンジへの恋」
作品33bis

指揮：パーヴォ・ヤルヴィ ピアノ：ベンジャミン・グローヴナー



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2025

05

May

第2037回

5/1 木 7:00pm

5/2 金 7:00pm

軋みあう“生と死”を超越し その彼方の光へ

マラー・フェスティバル2025 演奏曲(マラーのみ)

ベルク／ヴァイオリン協奏曲
マラー／交響曲 第4番ト長調*指揮：ファビオ・ルイージ
ヴァイオリン：諏訪内晶子
ソプラノ：森 麻季*

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2025

06

June

第2040回

6/12 木 7:00pm

6/13 金 7:00pm

チェリビダッケの直弟子 メナのブルックナー《第6番》

イペール／フルート協奏曲
ブルックナー／交響曲 第6番 イ長調指揮：ファンホ・メナ
フルート：カール・ハインツ・シュッツ

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回)

一般	S	A	B	C	D
	¥91,800	¥76,500	¥61,200	¥49,725	¥42,075
ユースチケット	S	A	B	C	D
	¥45,900	¥38,250	¥30,600	¥24,858	¥21,033

※Bプログラムではシーズン会員券の販売は行いません。

2024-25シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

C

多彩なマエストロ、ソリストたちが屈指の名曲でその個性を輝かせる。2時間のフルプログラムで、交響曲と舞台音楽の“粋”を聴く。

NHKホール | 金 7:00pm 土 2:00pm

※本シーズンより「休憩あり2時間程度」の公演とさせていただきます。
※金曜日の開演時刻を7:00pmに変更させていただきます(土曜日は従来通り2:00pm開演)。

Autumn

2024

09

September

第2018回

9/27 金 7:00pm

9/28 土 2:00pm

英国で評判の《白鳥の湖》を尾高忠明がN響で初披露

チャイコフスキー／ロココ風の主題による変奏曲
作品33(フィッツェンハーゲン版)*

チャイコフスキー／バレエ音楽「白鳥の湖」
作品20(抜粋)

指揮:尾高忠明
チェロ:辻本 玲(N響首席チェロ奏者)*



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

2024

10

October

第2021回

10/25 金 7:00pm

10/26 土 2:00pm

プロムシュテットに導かれて挑む
シューベルト最高峰の交響曲2作

シューベルト／交響曲 第7番 口短調 D. 759「未完成」
シューベルト／交響曲 第8番 八長調 D. 944
「ザ・グレート」

指揮:ヘルベルト・プロムシュテット



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2024

11

November

第2023回

11/15 金 7:00pm

11/16 土 2:00pm

世界を席巻するオロスコエストラダ
満を持してN響初登場

ワーグナー／歌劇「タンホイザー」序曲
ヴァインベルク／トランペット協奏曲 変ロ長調 作品94
ショスタコーヴィチ／交響曲 第5番 二短調 作品47

指揮:アンドレス・オロスコエストラダ
トランペット:ラインホルト・フリードリヒ



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

Winter

2024

12

December

第2027回

12/13 金 7:00pm

12/14 土 2:00pm

《千人の交響曲》に続く
ルイージ&N響の「ファウスト」シリーズ

リスト／交響詩「タッソー」
リスト／ファウスト交響曲*

指揮:ファビオ・ルイージ
テノール:ジェームズ・マッコークル*
男声合唱:東京オペラシンガーズ*



一般	ユースチケット
S ¥13,000	S ¥6,500
A ¥11,000	A ¥5,200
B ¥8,500	B ¥4,000
C ¥7,000	C ¥3,500
D ¥5,600	D ¥2,000
E ¥3,500	E ¥1,700

2025
01 January
第2029回
1/24 金 7:00pm
1/25 土 2:00pm

世紀を超えて受け継がれる“古典”の精神
ストラヴィンスキー／組曲「プルチネッタ」
ブラームス／交響曲 第1番 ハ短調 作品68
指揮：トウガン・ソヒエフ



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2025
02 February
第2033回
2/21 金 7:00pm
2/22 土 2:00pm

下野竜也が誘うオペレッタ名旋律の世界
スッペ／喜歌劇「軽騎兵」序曲
サン＝サーンス／ヴァイオリン協奏曲 第3番 口短調
作品61
スッペ／喜歌劇「詩人と農夫」序曲
オッフェンバック（ロザンタール編）／
バレエ音楽「パリの喜び」（抜粋）
指揮：下野竜也 ヴァイオリン：三浦文彰



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

Spring

2025
04 April

4月Cプログラムはヨーロッパ公演のため休止させていただきます

2025
05 May
第2038回
5/30 金 7:00pm
5/31 土 2:00pm

オペラ指揮者シュレキーテのR. シュトラウス！
N響定期初登場、藤田真央にも注目！
シューベルト／「ロザムンデ」序曲
ドホナーニ／童謡（きらきら星）の主題による変奏曲
作品25*
R. シュトラウス／歌劇「影のない女」による
交響的幻想曲
R. シュトラウス／歌劇「ばらの騎士」組曲
指揮：ギエドレ・シュレキーテ
ピアノ：藤田真央*



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

2025
06 June
第2041回
6/20 金 7:00pm
6/21 土 2:00pm

2000年生まれの新星 ペルトコスキのマーラー《巨人》
コルンゴルト／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35
マーラー／交響曲 第1番 二長調「巨人」
指揮：タルモ・ペルトコスキ
ヴァイオリン：ダニエル・ロザコヴィッチ



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

(以上、すべて税込)

年間会員券(8回)	一般	S ¥68,000	A ¥57,800	B ¥44,200	C ¥36,720	D ¥29,240
	ユースチケット	S ¥34,000	A ¥27,200	B ¥21,080	C ¥17,336	D ¥10,200

*2025年5月のヨーロッパ公演実施にともない、2025年4月公演を休止するため、本シーズンは全8回となります。

シーズン会員券 (Autumn/Winter) (3回)	一般	S ¥26,850	A ¥22,824	B ¥17,454	C ¥14,499	D ¥11,547
	ユースチケット	S ¥13,425	A ¥10,740	B ¥8,325	C ¥6,849	D ¥4,029
シーズン会員券 (Spring) (2回)	一般	S ¥17,900	A ¥15,216	B ¥11,636	C ¥9,666	D ¥7,698
	ユースチケット	S ¥8,950	A ¥7,160	B ¥5,550	C ¥4,566	D ¥2,686

チケットのご案内(定期公演 2024年9月～2025年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～44%お得です！(一般料金の場合。ユースチケットでは最大57%お得です。割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2024年7月7日[日](定期会員先行)／2024年7月15日[月・祝](一般)
	シーズン会員券(Winter)	2024年10月10日[木](定期会員先行)／2024年10月15日[火](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2025年2月13日[木](定期会員先行)／2025年2月19日[水](一般)

料金(税込)

年間会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム(9回)	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム(9回)	一般	¥91,800(¥10,200)	¥76,500(¥8,500)	¥61,200(¥6,800)	¥49,725(¥5,525)	¥42,075(¥4,675)
	ユースチケット	¥45,900(¥5,100)	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥24,858(¥2,762)	¥21,033(¥2,337)
Cプログラム(8回)	一般	¥68,000(¥8,500)	¥57,800(¥7,225)	¥44,200(¥5,525)	¥36,720(¥4,590)	¥29,240(¥3,655)
	ユースチケット	¥34,000(¥4,250)	¥27,200(¥3,400)	¥21,080(¥2,635)	¥17,336(¥2,167)	¥10,200(¥1,275)

シーズン会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム(3回) Cプログラム [Autumn/Winter](3回)	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)
Cプログラム[Spring] (2回)	一般	¥17,900(¥8,950)	¥15,216(¥7,608)	¥11,636(¥5,818)	¥9,666(¥4,833)	¥7,698(¥3,849)
	ユースチケット	¥8,950(¥4,475)	¥7,160(¥3,580)	¥5,550(¥2,775)	¥4,566(¥2,283)	¥2,686(¥1,343)

()内は1公演あたりの単価

※本シーズンよりD席のみ設定されていた「ユースチケット会員券」を、全席種(S～D)に拡大しました。

※本シーズンより定期会員券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	2024年7月31日[水](定期会員先行)／2024年8月4日[日](一般)
	12・1・2月	2024年10月17日[木](定期会員先行)／2024年10月23日[水](一般)
	4・5・6月	2025年2月26日[水](定期会員先行)／2025年3月2日[日](一般)

※本シーズンより1回券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

ユースチケット

N響では、若い世代の方にオーケストラを身近に感じていただくことを願って、お得な「ユースチケット」を設けています。

詳しくはN響ホームページをご覧ください。※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。

ユース世代の方へのお得なチケットが、さらに使いやすく！

対象年齢を拡大

2024年7月の主催公演から対象年齢を「29歳以下」に拡大します

定期会員券の対象席種を拡大

「S席～D席の全席種」に拡大します

お申し込み

WEBチケットN響
<https://nhkso.pia.jp>



N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間：10:00am～5:00pm/休休日：土・日・祝日

●主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業

●発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業 ●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on



N響ニュースレター

最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

特別公演

5/28(火) 7:00pm | Music Tomorrow 2024

東京オペラシティ コンサートホール | ※尾高眞授貸式・プレトーク: 6:30pm~

指揮:ペーター・ルンデル* ハープ:グザヴィエ・ドゥ・メストレ ピアノ:フランソワ・フレデリック・ギイ

*当初出演予定のペーテル・エトヴェシュ(指揮)から変更になりました。

エトヴェシュ/マレーヴィチを読む(2018) [日本初演]

湯浅譲二/打楽器、ハープ、ピアノ、弦楽オーケストラのための「哀歌(エレジー)—for my wife, Reiko—」(2023) [第71回「尾高賞」受賞作品]

エトヴェシュ/ハープ協奏曲(2023) [NHK交響楽団、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン放送管弦楽団・合唱団有限会社、スイス・ロマン管弦楽団、ウィーン楽友協会、ホルト・カーザ・ダムジカ 共同委嘱作品/日本初演]

ミュライユ/「嵐の目」—ピアノとオーケストラのための幻想即興曲(2022) [NHK交響楽団、ラジオフランス、BBCラジオ3、NDRエルプフィルハーモニー管弦楽団 共同委嘱作品/日本初演]

料金(税込):一般 | S席3,500円 A席2,500円 B席1,500円

WEBチケットN響 特別料金 | S席3,000円 A席2,000円 B席1,000円

ユースチケット(25歳以下) | 500円

チケット発売中

主催:NHK/NHK交響楽団 共催:公益財団法人東京オペラシティ文化財団

助成:芸術文化振興基金/公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団/公益財団法人アフィニス文化財団



7/12(金) 7:00pm | N響「夏」2024

NHK ホール

指揮:グスターボ・ヒメノ ヴァイオリン:ノア・ベンディックス・バルグリー

シベリウス/ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47

ベートーヴェン/交響曲 第6番 へ長調 作品68「田園」

料金(税込):一般 | S席7,300円 A席5,300円 B席3,300円 C席2,100円

ユースチケット(29歳以下) | S席3,600円 A席2,600円 B席1,600円 C席1,000円

※定期会員は一般料金から10%割引

チケット発売日:5月24日(金) 10:00am

N響定期会員先行発売日:5月14日(火) 10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団 協賛:岩谷産業株式会社

7/27(土) 3:30pm | 夏だ! 祭りだ!! N響ほっとコンサート

NHKホール

指揮:クリスティーナ・ボスカ ピアノ:アレクサンドラ・ドヴガン ナビゲーター:厚切りジェイソン
[世界ぐるっと名曲の旅]

ジョン・ウィリアムズ／オリンピック・スピリット(アメリカ)

エツレル／マイ・ホームランド(エストニア)

ブリテン／青少年のための管弦楽入門(イギリス)

グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調 作品16—第1楽章(ノルウェー)

J.シュトラウス1世／ラデツキー行進曲 作品228(オーストリア)

マスカーニ／歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」間奏曲(イタリア)

ビゼー／「アルルの女」組曲 第2番—「ファランドール」(フランス)

料金(税込):一般|S席5,200円 A席4,200円 B席3,000円 C席1,500円

ユースチケット(29歳以下)|S席4,000円 A席3,000円 B席2,000円 C席1,000円

小・中学生|S席2,000円 A席1,500円 B席1,000円 C席500円

※定期会員はS・A・B各席の一般料金から10%割引

チケット発売日:5/24(金)10:00am

N響定期会員先行発売日:5/14(火)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団 協賛:株式会社NTTドコモ 協力:株式会社グローバル/グローバル管楽器技術学院

9/5(木) 7:00pm | N響ウェルカム・コンサート

NHKホール

指揮:下野竜也 チェロ:辻本 玲(N響首席チェロ奏者)* ナビゲーター:大林奈津子

スッペ／喜歌劇「軽騎兵」序曲から(2月Cプログラム)

ドビュッシー／「イベリア」—「祭りの朝」(11月Aプログラム)

シューマン／交響曲 第1番「春」—第2楽章(2月Bプログラム)

マーラー／交響曲 第1番「巨人」—第2楽章から(6月Cプログラム)

チャイコフスキー／「ロココ風の主題による変奏曲」—第6、第7変奏*(9月Cプログラム)

プロコフィエフ／バレエ音楽「石の花」結婚組曲—「結婚の歌」(11月Bプログラム)

ブラームス／交響曲 第4番—第3楽章(10月Aプログラム)

ムソルグスキー(ラヴェル編)／組曲「展覧会の絵」—「バーバ・ヤガーの小屋」「キエフの大門」(12月Bプログラム)

料金(税込):一般1,800円/定期会員1,200円/ユースチケット(29歳以下)500円/

ウェルカム・ベアチケット(2枚1組)2,000円

チケット発売日:5/24(金)10:00am

N響定期会員先行発売日:5/14(火)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

9/9日 7:00pm | 明電舎 presents N響名曲コンサート 2024

サントリーホール

指揮:バ斯卡ル・ロフェ ピアノ:ジョナタン・フルネル
ブリテン/歌劇「ピーター・グライムズ」—「4つの海の間奏曲」作品33a
ラヴェル/左手のためのピアノ協奏曲 二長調
フォーレ/組曲「ベレアスとメリザンド」作品80
ドビュッシー/交響詩「海」

料金(税込):一般 | SS席8,500円 S席6,500円 A席5,000円 B席3,500円 C席2,500円
ユースチケット(29歳以下) | SS席4,200円 S席3,200円 A席2,500円 B席1,700円 C席1,200円
※定期会員は一般料金から10%割引

チケット発売日:5/24(金)10:00am
N響定期会員先行発売日:5/14(火)10:00am

主催:NHK交響楽団 特別協賛:株式会社明電舎

お申し込み

WEBチケットN響 | <https://nhkso.pia.jp>



N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間:10:00am~5:00pm
定休日:土・日・祝日

- 主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am~開演時刻まで営業
- 発売初日の土・日・祝日は10:00am~3:00pmの営業
- 電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

各地の公演

6/1(土) 5:00pm | 広上淳一指揮 NHK交響楽団 チェロ:上野通明

グランシップ 中ホール・大地

指揮:広上淳一 チェロ:上野通明

ドヴォルザーク/チェロ協奏曲 口短調 作品104

リムスキー・コルサコフ/交響組曲「シェエラザード」作品35

主催:(公財)静岡県文化財団、静岡県 お問い合わせ:グランシップチケットセンター TEL(054)289-9000

6/2(日) 3:30pm | NHK交響楽団 幸田公演

幸田町民会館 さくらホール

出演者・曲目は6月1日と同じ

主催:幸田町、幸田町文化振興協会 お問い合わせ:幸田町文化振興協会 TEL(0564)63-1111

6/23(日) 2:00pm | 鈴木優人×イザベル・ファウスト NHK交響楽団 in Chofu

調布市グリーンホール 大ホール

指揮:鈴木優人 ヴァイオリン:イザベル・ファウスト

ベートーヴェン/ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61

バッハ(ウェーベルン編)/リチェルカータ

シューベルト/交響曲 第5番 変ロ長調 D.485

主催:(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団、調布市 お問い合わせ:チケットCHOFU TEL(042)481-7222

6/29(土) 4:00pm | 井上道義指揮 NHK交響楽団演奏会 ヴァイオリン:服部百音

サントリーホール

指揮:井上道義 ヴァイオリン:服部百音

ショスタコーヴィチ/ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 作品77

ロッシーニ/歌劇「ブルスキオーネ」序曲

ショスタコーヴィチ/ヴァイオリン協奏曲 第2番 嬰ハ短調 作品129

主催・お問い合わせ:サンライズプロモーション東京 TEL(0570)00-3337

6/30(日)4:00pm | 井上道義指揮 NHK交響楽団演奏会 ヴァイオリン:服部百音

フェスティバルホール

出演者・曲目は6月29日と同じ

主催:サンライズプロモーション東京 お問い合わせ:キョードーインフォメーション TEL (0570) 200-888

7/7(日)3:00pm | NHK交響楽団 郡山公演

けんしん郡山文化センター 大ホール

指揮:秋山和慶 ピアノ:アレクサンダー・ガジェウ
ベートーヴェン/ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 作品37
ブラームス/交響曲 第4番 ホ短調 作品98

主催:(公財)郡山市文化・学び振興公社(郡山市民文化センター指定管理者)
お問い合わせ:けんしん郡山文化センター(郡山市民文化センター) TEL (024) 934-2288

7/14(日)6:00pm | 第26回 NHK交響楽団松山定期演奏会

愛媛県県民文化会館 メインホール

指揮:グスターボ・ヒメノ バイオリン:ノア・ベンディックス・バルグリー
シベリウス/バイオリン協奏曲 二短調 作品47
ベートーヴェン/交響曲 第6番 へ長調 作品68「田園」

主催:NHK松山放送局、愛媛新聞社、NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL (050) 5541-8600

7/16(火)7:00pm | 東広島市制施行50周年記念事業 NHK交響楽団 東広島特別演奏会

東広島市芸術文化ホールくらら 大ホール

出演者・曲目は7月14日と同じ

主催:東広島芸術文化ホール指定管理者 お問い合わせ:東広島芸術文化ホールくらら チケットセンター TEL (082) 426-5990

7/21(日)5:00pm | NHK交響楽団演奏会 富山公演

富山県民会館 ホール

指揮:クリスティーナ・ポスカ ヴァイオリン:荒井里桜
モーツァルト/歌劇「イドメネオ」バレエ音楽 K. 367—「シャコンヌ」「パ・スール」
メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64
モーツァルト/交響曲 第41番 ハ長調 K. 551「ジュピター」

主催:(公財)富山県文化振興財団 富山県民会館
お問い合わせ:富山県民会館 TEL (076) 432-3115(平日9時~17時)、(076) 432-3111(平日17時以降、土日祝)

7/30(火) 7:00pm | N響ほっとコンサート in 鳥取

とりぎん文化会館 梨花ホール

指揮:クリスティーナ・ボスカ **ピアノ:**アレクサンドラ・ドヴガン

ジョン・ウィリアムズ／オリンピック・スピリット(アメリカ)

エッセル／マイ・ホームランド(エストニア)

ブリテン／青少年のための管弦楽入門(イギリス)

グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調 作品16(ノルウェー)

J. シュトラウス1世／ラデツキー行進曲 作品228(オーストリア)

マスカーニ／歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」間奏曲(イタリア)

ビゼー／「アルルの女」組曲 第2番「ファランドール」(フランス)

主催:(公財)鳥取県文化振興財団 お問い合わせ:とりぎん文化会館 TEL (0857) 21-8700

8/4(日) 4:00pm | フェスタ サマーミュージア KAWASAKI 2024

ミュージア川崎シンフォニーホール

指揮:沼尻竜典 **ヴァイオリン:**戸田弥生

ブラームス／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77

ブラームス(シェーンベルク編)／ピアノ四重奏曲 第1番ト短調 作品25

主催:川崎市／ミュージア川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ) お問い合わせ:ミュージア川崎シンフォニーホール TEL (044) 520-0200

8/30(金) 6:30pm | [福島市音楽堂開館40周年記念事業] NHK交響楽団

ふくしん夢の音楽堂 大ホール

指揮:下野竜也 **ピアノ:**横山幸雄

ショパン／ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11

ドヴォルザーク／交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界から」

主催:(公財)福島市振興公社 お問い合わせ:ふくしん夢の音楽堂 TEL (024) 531-6221

8/31(土) 3:00pm | NHK交響楽団 山形特別公演

やまぎん県民ホール(山形県総合文化芸術館) 大ホール

出演者・曲目は8月30日と同じ

主催:山形テレビ／キョードー東北 お問い合わせ:キョードー東北 TEL (022) 217-7788

9/1(日) 5:00pm | NHK交響楽団 秋田特別公演

あきた芸術劇場ミルハス 大ホール

出演者・曲目は8月30日と同じ

主催:秋田放送／キョードー東北 お問い合わせ:キョードー東北 TEL (022) 217-7788

9/22(日) 3:00pm | 第26回 NHK交響楽団足利定期公演

あしかがフラワーパークプラザ(足利市民プラザ)・文化ホール

指揮:ファビオ・ルイーゼ ピアノ:エレヌ・グリモー

シューベルト/イタリア風序曲 第2番 ハ長調 D. 591

シューマン/ピアノ協奏曲 イ短調 作品54

ベートーヴェン/交響曲 第7番 イ長調 作品92

主催:(公財)足利市みどり文化スポーツ財団 お問い合わせ:あしかがフラワーパークプラザ(足利市民プラザ) TEL (0284) 72-8511

9/23(月) 2:00pm | NHK交響楽団演奏会 高崎公演

高崎芸術劇場 大劇場

出演者・曲目は9月22日と同じ

主催:高崎芸術劇場((公財)高崎財団) お問い合わせ:高崎芸術劇場チケットセンター TEL (027) 321-3900

オーチャード定期

横浜みなとみらいホール 大ホール

7/6(土) 3:30pm

出演者・曲目は7月7日と同じ

主催:お問い合わせ:Bunkamura TEL (03)3477-3244

NHK交響楽団

首席指揮者：ファビオ・ルイーゼ
名誉音楽監督：シャルル・デュトラ
桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュエット
桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケネージ
名誉指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ
正指揮者：尾高忠明、下野竜也

特別コンサートマスター：篠崎史紀
第1コンサートマスター：郷古 廉
ゲスト・コンサートマスター：川崎洋介

第1ヴァイオリン

青木 調
宇根京子
大鹿由希
○倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
○松田拓之
宮川奈々
村尾隆人
○山岸 努
○横島礼理
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

◎大宮臨太郎
◎森田昌弘
木全利行
齋藤麻衣子
○嶋田慶子
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
○三又治彦
矢津将也

山田慶一
横山俊朗
米田有花

飯塚步夢
東條太河

ヴィオラ

◎佐々木 亮
◎村上淳一郎
☆中村翔太郎
小野 聡
小島茂隆
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
御法川雄矢
○村松 龍
山田雄司

チェロ

◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小島幸法
○中 実穂
○西山健一
藤村俊介
藤森洗一
宮坂拓志

村井 将
矢部優典
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

◎吉田 秀
○市川雅典
稻川永示
○岡本 潤
今野 京
○西山真二
本間達朗
矢内陽子

フルート

◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真歩
中村淳二

オーボエ

◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

◎伊藤 圭
◎松本健司
山根孝司

ファゴット

◎宇賀神広宣
◎水谷上総
佐藤由起
菅原恵子
森田 格

ホルン

◎今井仁志
石山直城
勝俣 泰
木川博史
庄司雄大
野見山和子

トランペット

◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
藤井虹太郎
山本英司

トロンボーン

◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
黒金寛行
吉川武典

テューバ

池田幸広

ティンパニ

◎植松 透
◎久保昌一

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハーブ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉
黒川大亮

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長 喜勢陽一
東日本電信電話株式会社	代表取締役社長 澁谷直樹

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 長谷川正敏
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 山浦 敦
ぴあ株式会社	代表取締役社長 矢内 廣

賛助会員

・ 常陸宮	・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 山田裕行	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長 吉岡秀二
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史	・ SCSK(株) 代表取締役 執行役員社長 當麻隆昭
・ 相川直樹	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長 佐々木経世	・ (株)NHKアート 代表取締役社長 平田恭佐
・ (株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 片倉正美	・ NHK営業サービス(株) 代表取締役社長 長村 中
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長 大谷喜一	・ (株)井口一世 代表取締役 井口一世	・ (株)NHK エデュケーショナル 代表取締役社長 荒木美弥子
・ 築設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 有吉伸人
・ (株)あ佳音 代表取締役社長 遠山信之	・ (一財)ITOH 代表理事 伊東忠俊	・ (学)NHK学園 理事長 等々力 健
・ AXL.BIT(株) 代表取締役社長 長谷川章博	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長(CEO) 中島伸子	・ (株)NHK グローバルメディアサービス 代表取締役 傍田賢治
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO 勝木敦志	・ (有)IL VIOLINO MAGICO 代表取締役 山下智之	・ (株)NHK 出版 代表取締役社長 松本浩司
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 鈴木幸一	・ (株)NHK テクノロジーズ 代表取締役社長 野口周一
・ 朝日信用金庫 理事長 伊藤康博	・ 内 聖美	・ (株)NHK ビジネスクリエイト 代表取締役社長 石原 勉

- ・(株)NHK プロモーション
代表取締役社長 | 有吉伸人
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTTファシリティーズ
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 加藤恭一
- ・MN インターファッション(株)
代表取締役社長 | 木原伸一
- ・(株)エルトク
代表取締役 | 間部恵造
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組
代表取締役社長 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎悦子
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)
取締役社長 | 鈴木 滋
- ・陰山建設(株)
代表取締役 | 陰山正弘
- ・カンオ計算機(株)
代表取締役社長CEO兼CHRO
増田裕一
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 谷垣邦夫
- ・キッコーマン(株)
代表取締役社長CEO | 中野祥三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 半田 充
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 梅野 修
- ・(一社)共同通信社
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役会長CEO | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 重盛次正
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
小林敏也
- ・KDDI(株)
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・(医)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)構造計画研究所
代表執行役社長 | 渡邊太門
- ・(株)コーポレートディレクション
代表取締役 | 小川達大
- ・小林弘侖
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマクス・ホールディングス
取締役会長兼取締役会議長 | 富村隆一
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 廣野眞一
- ・(株)小学館
代表取締役社長 | 相賀信宏
- ・(株)商工組合中央金庫
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役 | 白川亜弥
- ・(有)新赤坂健康管理協会
代表取締役社長 | 小池 学
- ・信越化学工業(株)
代表取締役社長 | 斉藤恭彦
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役 会長兼社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株)
代表取締役社長執行役員 CEO
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学
理事長・学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
代表取締役社長 | 小川周一郎
- ・清和綜合建物(株)
代表取締役社長 | 大串桂一郎
- ・関彰商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノン
代表取締役 | 稲葉 誠
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO | 村松俊亮
- ・損害保険ジャパン(株)
代表取締役社長 | 石川耕治
- ・第一三共(株)
代表取締役会長兼CEO | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)
代表取締役社長 | 隅野俊亮
- ・ダイキン工業(株)
取締役社長 | 十河政則
- ・大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎

- ・大日コーポレーション(株)
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田中貴金属工業(株)
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗
- ・田中進
- ・田原昇
- ・チャンネル銀河(株)
代表取締役社長 | 前田鎮男
- ・中央日本土地建物グループ(株)
代表取締役社長 | 三宅 潔
- ・中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・テルウェル東日本(株)
代表取締役社長 | 石川 達
- ・(株)電通
代表取締役社長執行役員 | 佐野 傑
- ・(株)テンポプリモ
代表取締役 | 中村聡武
- ・東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)
代表取締役会長 | 石田建昭
- ・東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 丹波俊介
- ・東急(株)
取締役社長 | 堀江正博
- ・(株)東急コミュニティー
代表取締役社長 | 木村昌平
- ・(株)東急文化村
代表取締役 | 嶋田 創
- ・東京海上日動火災保険(株)
取締役社長 | 城田宏明
- ・(株)東京交通会館
取締役社長 | 興野敦郎
- ・東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)
取締役社長 | 都筑 豊
- ・桐朋学園大学
学長 | 辰巳明子
- ・東邦ホールディングス(株)
代表取締役 | 有働 敦
- ・(株)東北新社
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・鳥取末広座(株)
代表取締役 | 西川八重子
- ・(一財)凸版印刷三幸会
代表理事 | 金子眞吾
- ・トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 | 佐藤恒信
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ
代表 | 渡辺蔵人
- ・中本光子
- ・日興アセットマネジメント(株)
会長 | 西田 豊
- ・日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 三輪正浩
- ・日東紡績(株)
取締役代表執行役会長 | 辻 裕一
- ・(株)日本アーティスト
代表取締役 | 幡野業穂子
- ・日本ガイシ(株)
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本カストディ銀行
代表取締役社長 | 土屋正裕
- ・(株)日本国際放送
代表取締役社長 | 高尾 潤
- ・日本たばこ産業(株)
代表取締役社長 | 寺島正道
- ・日本運通(株)
代表取締役社長 | 堀切 智
- ・日本電気(株)
代表取締役執行役員社長 | 森田隆之
- ・(一財)日本放送協会共済会
理事長 | 谷弘聡史
- ・日本みらいホールディングス(株)
代表取締役 | 安嶋 明
- ・日本郵政(株)
取締役兼代表執行役社長 | 増田寛也
- ・(株)ニフコ
取締役会長 | 山本利行
- ・野田浩一
- ・野村ホールディングス(株)
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニックホールディングス(株)
代表取締役社長執行役員グループCEO
楠見雄規
- ・(株)原田武夫国際戦略情報研究所
代表取締役 | 原田武夫
- ・(有)バルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・びあ(株)
代表取締役社長 | 矢内 廣
- ・東日本電信電話(株)
代表取締役社長 | 澁谷直樹
- ・(株)日立製作所
執行役社長 | 小島啓二
- ・(株)フォトン
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)
代表取締役社長 | 渡部広史
- ・古川建築音響研究所
所長 | 古川宣一
- ・ペプチドリーム(株)
代表取締役社長CEO | リード・バトリック
- ・(株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原克明
- ・(株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公財)放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)
代表取締役社長 | 水野雅義
- ・(株)ポケモン
代表取締役社長 | 石原恒和
- ・前田工織(株)
代表取締役社長兼COO | 前田尚宏
- ・牧 寛之
- ・町田優子
- ・丸紅(株)
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・溝江建設(株)
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 船曳真一郎
- ・(株)三井住友銀行
頭取 | 福留朗裕
- ・三井住友信託銀行(株)
取締役社長 | 大山一也

- ・三菱商事(株)
代表取締役社長 | 中西勝也
- ・三菱電機(株)
執行役社長 | 漆間 啓
- ・(株)緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 | 永田周太郎
- ・三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(株)ミロク情報サービス
代表取締役社長 | 是枝周樹
- ・(学)武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学
理事長 | 福井直敬
- ・(株)明治
代表取締役社長 | 松田克也
- ・(株)明電舎
代表取締役 執行役員社長 | 井上晃夫
- ・メットライフ生命保険(株)
代表執行役 会長 社長 最高経営責任者
ディルク・オステイン

- ・(株)目の眼
社主 | 櫻井 恵
- ・(株)モメンタム ジャパン
代表取締役社長 | 三溝広志
- ・森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- ・森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
- ・矢下茂雄
- ・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
- ・(株)ヤマハミュージックジャパン
社長 | 松岡祐治
- ・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- ・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 菊地英之
- ・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 貞広貴志

- ・リコージャパン(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO
笠井 徹
 - ・料亭 三長
代表 | 高橋千善
 - ・(株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
 - ・(有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 戸張誠二
 - ・ローム(株)
代表取締役社長 社長執行役員
松本 功
 - ・YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 田淵浩記
 - ・YCC(株)
社長 | 中山武之
 - ・渡辺敦郎・優子
- (五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

曲目解説執筆者

小林ひかり(こばやし ひかり)

北欧音楽研究家。大阪大学大学院文学研究科(音楽学) 博士後期課程修了。訳書にアーリング・ダール著『グリーグ——その生涯と音楽』、論文に「近代日本におけるグリーグの音楽の受容」など。

高松佑介(たかまつ ゆうすけ)

千葉工業大学未来変革科学部教育センター助教、青山学院大学、一橋大学ほか非常勤講師。専門は19世紀のドイツ・オーストリアの音楽。フランツ・シューベルトの器楽曲における中間楽章に関する論文で博士号を取得。訳書にハンス・ヨアヒム・ヒンリヒセン著『ブルックナー交響曲』。

安川智子(やすかわ ともこ)

北里大学教授、東京藝術大学非常勤講師。博士(音楽学)。おもな研究領域は19世紀から20世紀初頭のフランス音楽および音楽理論史。共編著書に『ベートーヴェンと大衆文化』『ハーモニー探究の歴史——思想としての和声理論』、共著書に『オペラの時代』、訳書にフランソワ・ポルシル著『ベル・エポックの音楽家たち』など。

(五十音順、敬称略)

Information

新入団

ホルン 庄司雄大(しょうじ ゆうだい) 2024年5月1日付で入団。

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の
2次元コードを読み取る。
またはURLを入力
[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、
〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

Specially Appointed Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

First Concertmaster: Sunao Goko

Guest Concertmaster: Yosuke Kawasaki

1st Violins

- Shirabe Aoki
Kyoko Une
Yuki Oshika
○ Ryota Kuratomi
Ko Goto
Tamaki Kobayashi
Toshihiro Takai
Yuki Naoi
Yumiko Nakamura
Takao Furihata
○ Hiroyuki Matsuda
Nana Miyagawa
Ryuto Muraō
○ Tsutomu Yamagishi
○ Masamichi Yokoshima
○ Koichi Yokomizo

2nd Violins

- Rintaro Omiya
○ Masahiro Morita
Toshiyuki Kimata
Maiko Saito
○ Keiko Shimada
○ Atsushi Shirai
○ Akiko Tanaka
Kirara Tsuboi
Yosuke Niwa
Kazuhiro Hirano
Yoko Funaki
Kenji Matano
○ Haruhiko Mimata
Masaya Yazu
Yoshikazu Yamada
Toshiro Yokoyama
Yuka Yoneda

Ayumu Iizuka
Taiga Tojo

Violas

- Ryo Sasaki
○ Junichiro Murakami
☆ Shotaro Nakamura
Satoshi Ono
Shigetaka Obata
□ Gentaro Sakaguchi
Mayumi Taniguchi
Hiroto Tobisawa
○ Hironori Nakamura
Naoyuki Matsui
Rachel Yui Mikuni
Yuya Minorikawa
○ Ryo Muramatsu
Yuji Yamada

Cellos

- Rei Tsujimoto
○ Ryoichi Fujimori
Hiroya Ichi
Yukinori Kobatake
○ Miho Naka
○ Ken'ichi Nishiyama
Shunsuke Fujimura
Koichi Fujimori
Hiroshi Miyasaka
Yuki Murai
Yusuke Yabe
○ Shunsuke Yamanouchi
Masako Watanabe

Contrabasses

- Shu Yoshida
○ Masanori Ichikawa
Eiji Inagawa
○ Jun Okamoto
Takashi Konno
○ Shinji Nishiyama
Tatsuro Honma
Yoko Yanai

Flutes

- Masayuki Kai
○ Hiroaki Kanda
Maho Kajikawa
Junji Nakamura

Oboes

- Yumi Yoshimura
Shoko Ikeda
Izumi Tsuboike
Hitoshi Wakui

Clarinets

- Kei Ito
○ Kenji Matsumoto
Takashi Yamane

Bassoons

- Hironori Ugajin
○ Kazusa Mizutani
Yuki Sato
Keiko Sugawara
Itaru Morita

Horns

- Hitoshi Imai
Naoki Ishiyama
Yasushi Katsumata
Hiroshi Kigawa
Yudai Shoji
Kazuko Nomiyama

Trumpets

- Kazuaki Kikumoto
○ Tomoyuki Hasegawa
Tomoki Ando
Kotaro Fujii

Eiji Yamamoto

Trombones

- Hikaru Koga
○ Mikio Nitta
Ko Ikegami
Hiroyuki Kurogane
Takenori Yoshikawa

Tuba

Yukihiro Ikeda

Timpani

- Toru Uematsu
○ Shoichi Kubo

Percussion

Tatsuya Ishikawa
Hidemi Kuroda
Satoshi Takeshima

Harp

Risako Hayakawa

Stage Manager

Masaya Tokunaga
Daisuke Kurokawa

Librarian

Akane Oki
Hideo Kimura

(○ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector)

PROGRAM

A

Concert No.2010

NHK Hall

May

11 (Sat) 6:00pm

12 (Sun) 2:00pm

conductor

Fabio Luisi

concertmaster

Fuminori Maro Shinozaki

Riccardo Panfili***Abitare la battaglia*** (*Living the Battle*)

[Japan Première] [16']

Ottorino Respighi***Pini di Roma***, symphonic poem(*Pines of Rome*) [21']

- I I pini Villa Borghese
(The Pines of the Villa Borghese)
- II Pini presso una catacomba
(Pines near Catacomb)
- III I pini del Gianicolo
(The Pines of the Janiculum)
- IV I pini della Via Appia
(The Pines of the Appian Way)

— intermission (20 minutes) —

Ottorino Respighi***Fontane di Roma***, symphonic poem(*Fountains of Rome*) [18']

- I La fontana di Valle Giulia all'alba
(The Fountain of Valle Giulia at Dawn)
- II La fontana del Tritone al mattino
(The Triton Fountain in the Morning)
- III La fontana di Trevi al meriggio
(The Trevi Fountain at Noon)
- IV La fontana di Villa Medici al tramonto
(The Villa Medici Fountain at Sunset)

Ottorino Respighi***Feste Romane***,
symphonic poem(*Roman Festivals*) [23']

- I Circenses (Circus Games)
- II Giubileo (The Jubilee)
- III L'ottobrata (The October Harvest)
- IV La Befana (The Epiphany)

- Program order of the concert has changed from initially announced.
- All performance durations are approximate.

A

11 & 12, MAY, 2024

Fabio Luisi, conductor



Fabio Luisi hails from Genoa. He is the Principal Conductor of the Danish National Symphony Orchestra and the Music Director of the Dallas Symphony Orchestra. He first conducted the NHK Symphony Orchestra in 2001, and in September 2022 he became Chief Conductor of the orchestra. He conducted Verdi's *Requiem* in the concert to celebrate his appointment, and Mahler's *Symphonie der Tausend* to commemorate

the orchestra's 2000th subscription concert in December 2023. These two monumental performances have brought him great success. He has presented works of German and Austrian composers such as Beethoven, Brahms, Bruckner and R. Strauss as well as those of Franck and Saint-Saëns, Francophone composers, and with his conducting style full of passion and poetic sentiment, has captured the hearts of many of audience members. In August 2023, his tenure as Chief Conductor was extended by three years until August 2028.

He was General Music Director of the Opernhaus Zürich, Principal Conductor of the Metropolitan Opera in New York, Principal Conductor of the Wiener Symphoniker, as well as General Music Director of the Staatskapelle Dresden and the Sächsische Staatsoper, Artistic Director and Principal Conductor of the MDR Sinfonieorchester Leipzig, Music Director of the Orchestre de la Suisse Romande and Chief Conductor of the Tonkünstler Orchester. He is Music Director of the Festival della Valle d'Itria in Martina Franca (Apulia) and has appeared as guest conductor with numerous renowned ensembles, including the Philadelphia Orchestra, the Cleveland Orchestra, the Münchener Philharmoniker, the Filarmonica della Scala, the London Symphony Orchestra, the Royal Concertgebouw Orchestra, and the Saito Kinen Orchestra, while also conducting operas at world's major opera houses. Important recordings include Verdi, Bellini, Schumann, Berlioz, Rachmaninov, Rimsky-Korsakov, Frank Martin, and Franz Schmidt, the largely forgotten Austrian composer. In addition, he has recorded various symphonic poems by Richard Strauss, and a lauded reading of Bruckner's Symphony No. 9 with the Staatskapelle Dresden. His recordings of Wagner's *Siegfried* and *Götterdämmerung* with the Metropolitan Opera won Grammy awards.

Program Notes | Kumiko Nishi

Riccardo Panfili (1979-)***Abitare la battaglia* (Living the Battle) [Japan Première]**

Riccardo Panfili, one of the most sought-after Italian contemporary composers, dedicated his *Abitare la battaglia* (*Living the Battle*) “with affection, esteem and gratitude” to the conductor Fabio Luisi who world-premiered both the original version (2017) and the substantially-revised version (2022). Back in 2016, Panfili's *Oltre la linea* for orchestra, commissioned by Milan's Teatro alla Scala, had been revealed by Luisi on the podium.

Born in Terni, Panfili held the spotlight in 2006 when his *Danzario* won the Santa Cecilia

International Composition Competition to be first performed under Antonio Pappano's baton. Four years later, Panfili was chosen as musical assistant to the foremost composer Hans Werner Henze (1926–2012). Panfili's latest opera *Noi, due, quattro...* (2019) was commissioned by Florence's Teatro del Maggio Musicale of which Luisi served as music director from 2018 to 2019.

Abitare la battaglia, another commission from Maggio Musicale, was composed for their New Year's Eve concert conducted by Luisi to be programmed alongside Beethoven's philanthropic Symphony No. 9. Panfili named this short but intense piece after Gabriele Baldini's study of Verdi's operas*. According to Panfili, the term "battle" has linked Verdi and Beethoven in his mind due to their fight for society but also their tireless combat in musical creation against routine and mannerism. Opening Misterioso (mysteriously) in the lowest volume (**ppppp**), *Abitare la battaglia* reaches its zenith at the central Selvaggio (savage) section. The tranquil close comes right after the inexorable Apocalittico (apocalyptic) section with heavy blows from timpani.

*The full title is *Abitare la Battaglia. La Storia di Giuseppe Verdi (Living the Battle – The Story of Giuseppe Verdi)*.

Ottorino Respighi (1879–1936)

Pini di Roma, symphonic poem (Pines of Rome)

The cradle of opera, sonata and sinfonia, Italy had always played the lead role in every sphere of classical music history. In the course of the 19th century, however, Austro-German composers came into the mainstream of instrumental music, while Italy witnessed the phenomenal development of opera led by Rossini (1792–1868) and Verdi (1813–1901). The early 20th century saw the revival of instrumental creation in the Italian Peninsula, to which Respighi's contributions cannot be overestimated.

Originally from Bologna, Respighi is known for his elaborate scoring skills. These were honed under Rimsky-Korsakov (1844–1908), a greatest orchestrator, while the young Italian was working as a viola player in Saint Petersburg. The "Roman Trilogy" performed today represents Respighi's colorfully imaginative orchestration. It was penned after he moved to Rome in 1913 as the city's beauty, history and flourishing orchestral concert culture inspired him. Each of the three pieces has four parts played without pause, with the detailed programmatic explanations by the composer himself on the scores.

The second of the triptych, *Pini di Roma* (1923–1924) pays tribute to centuries-old pine trees, a symbol of immortality and vitality, which have graced the Eternal City's scenery since ancient times. The animated first part depicts children at play around pines in the Villa Borghese gardens built in the 17th century, while the mysteriously gloomy second part evokes pines by the entrance of an ancient catacomb, subterranean burial for early Christians. The slow third part pictures moonlit pines on the Janiculum Hill: towards the end of the score, Respighi requests to utilize a recording of a singing nightingale (replaced by a bird whistles for today's performance) over the violins' trills, which made him one of the earliest composers who included pre-recorded sounds in acoustic orchestration. The finale, in march rhythm and tempo, praises the Appian Way lined with pine trees. A quiet misty daybreak is followed by an extended crescendo suggesting the approach of a legion marching on this military road built in 312 BC. Trumpets resound: with the rising Sun in the background, victorious soldiers mount to the Capitoline Hill.

Ottorino Respighi

Fontane di Roma, symphonic poem (*Fountains of Rome*)

Respighi wrote *Fontane di Roma* in 1915–1916 as a lone piece. When the 1917 premiere got a cool reception, producing the sequels was still not to be thought of. Only its successful 1918 performance under Arturo Toscanini's baton to a great sensation led to Respighi's world-wide fame as the composer of the Trilogy to come.

Fontane presents four of Rome's fountains at the hours when each one's beauty appears the most impressive to us. The idyllic first part describes a fountain in the Valle Giulia area at dawn. The next part, on a bright morning, pictures the 17th-century Triton Fountain sculpted by the Baroque master Gian Lorenzo Bernini. The powerful French horns imitate the summons of the sea god Triton blowing his conch shell. Opening with a solemn tune, the third part captures the magnificence of the famous 18th-century Trevi Fountain, Rome's largest fountain, at midday. The finale is flooded with nostalgia: it's dusk at the Villa Medici Fountain. Singing birds, rustling leaves in the gentle breeze, tolling bells are heard, then everything fades into the still of the night.

Ottorino Respighi

Feste Romane, symphonic poem (*Roman Festivals*)

In the triptych, *Feste Romane* (1928) calls for the largest orchestra including a varied percussion section, piano, organ, mandolin and buccinas (buccina is a brass signal instrument used in the ancient Roman military and replaced by trumpets during today's performance following the suggestion by the composer). Respighi's graphic tone painting lets us come down in time to look on four different Roman event/celebrations.

The setting of the opening scene is an ancient Roman stadium. A fanfare resounds for a cruel circus, the audience shouts, and hungry beasts growl. About to be their prey, Christian martyrs chant a sorrowful melody. The second part invites us to the medieval era, when Christian pilgrims get to Rome to celebrate the Jubilee. The third part illustrates the Renaissance wine-grape harvest festival in the Castelli Romani hills with a mandolin, hardly seen in the classical orchestra, playing a serenade. The finale is set in the Piazza Navona square on a modern night before Epiphany. Opened by vibrant clarinet tunes, the merry music portrays a saltarello (an Italian fast folk dance in triple-meter), a barrel organ, bacchanalian revelers and the like to end the Trilogy euphorically.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

B

Concert No.2012

Suntory Hall

May

22(Wed) 7:00pm

23(Thu) 7:00pm

conductor

Fabio Luisi | for a profile of Fabio Luisi, see p. 50

piano

Rudolf Buchbinder

concertmaster

Yosuke Kawasaki

Johannes Brahms Piano Concerto No. 1 D Minor Op. 15 [44']

I Maestoso

II Adagio

III Rondo: Allegro non troppo

— intermission (20 minutes) —

Carl Nielsen Symphony No. 2 B Minor Op. 16, *The 4 Temperaments* [35']

I Allegro collerico

II Allegro comodo e flemmatico

III Andante malincolico

IV Allegro sanguineo

- All performance durations are approximate.

Artist Profile

Rudolf Buchbinder, piano



© Michael Ochs

Rudolf Buchbinder, who was born in the Bohemian region of the former Czechoslovakia in 1946, is a pianist who greatly enjoys freedom while also inheriting the Viennese musical heritage. He described his career as an “infinite crescendo” twelve years ago, however, as he gained conviction in following an authentic path to honor traditions, he seems to have been mentally liberated from being overly aggressive, thus his performances

began to display a free flow of emotional expressions and improvisational freshness. After his diligent academic quest and strict training, the self-assured music he produces in the excitement and exaltation of live performance exhibits his innate optimistic passion, and still retains youthful performances even though he has matured over the years.

His repertoire focuses on Bach, the works of the Viennese Classical School, and those of German Romantic composers, however, he also gives his attention to contemporary works. For

B

22 & 23 MAY, 2024

more than 60 times, he has played the complete 32 piano sonatas of Beethoven in many parts of the world, has recorded them three times until now, and in March this year, he presented the complete performances at the Spring Festival in Tokyo. He returns to the NHK Symphony Orchestra for the first time in 10 years, under the baton of Fabio Luisi, as was the last time, and he will play Brahms Piano Concerto No.1. As he has two celebrated recordings of this work under Zubin Mehta and Nikolaus Harnoncourt, and, that the concerto is considered to be his specialty, we can naturally expect to hear his performance with all his might and passion.

[Rudolf Buchbinder by Takaakira Aosawa, music critic]

Program Notes | Kumiko Nishi

Johannes Brahms (1833–1897)

Piano Concerto No. 1 D Minor Op. 15

New Paths – the composer and critic Schumann (1810–1856) entitled his article this in October 1853 to extoll an unknown Hamburg-born twenty-year-old named Johannes Brahms. Unfortunately, Schumann, who quickly became Brahms’ mentor, was unable to witness the “new paths” ahead: suffering from mental illness, Schumann attempted suicide in February 1854, prior to his two-year confinement in a sanitarium and subsequent passing. This gave Brahms a terrible shock, which is said to have influenced the dark side of his Piano Concerto No. 1 to some extent. Its origin, a sonata for two pianos, was indeed born in the spring of 1854. After striving to reshape it as a symphony in vain, he recycled the draft to finish the opening movement of his first piano concerto in the autumn of 1856. The third and then second movements were completed before long.

Besides the piano part turning its back on any pleasant showiness, the first audience might have been puzzled about the tonally harsh start of this concerto: strings state the B-flat-major main theme with intimidating trills, over a stern D-minor chord. Suggestive is that Brahms inscribed “Blessed is he who comes in the name of the Lord” on the sketch of the not-earthly second movement. The vigorous finale is a Baroque-inspired rondo with two episodes (in A–B–A–C–A–B form). It has, rather unusually, two separate cadenzas (the soloist’s virtuosic passages) which lead the music to a brilliant D-major close.

Carl Nielsen (1865–1931)

Symphony No. 2 B Minor Op. 16, *The 4 Temperaments*

The most prominent Danish composer of all time, Nielsen studied composition in Copenhagen under the senior compatriot Niels Gade (1817–1890) who had lived in Leipzig in the 1840s deepening his friendship with Mendelssohn and Schumann there. While composing, Nielsen started his career as an orchestral violinist in 1889. He later served as a conductor with the Royal Theatre in Copenhagen and the Orchestra of the Copenhagen Music Society.

Nielsen left us a vast catalogue including six free-spirited symphonies (premiered on his native soil between 1894 and 1925), concertos, two operas and a profusion of songs and choral

works. His early symphonies clearly follow the tradition of Brahms and Dvořák (1841–1904), while the Danish composer is seeking to free himself from it, consciously or unconsciously, as early as in his quite unique Symphony No. 2.

No. 2 was completed in 1902 and first performed the same year under the baton of Nielsen himself. It has a Classical structure having in the middle the waltz movement (replacing a Classical minuet/scherzo movement) and the tuneful slow movement: only the four movements and the entire work itself are given the titles of an uncommon sort for a symphony. Based on the theory of the ancient Greek physician Hippocrates, the four temperaments are the four basic humors of which the balance determines our personality. Although the symphony's source of inspiration was a comical picture about the four temperaments Nielsen saw in an inn, he, going through a marital crisis, was concerned about the human psychology and personality at the time, which is also reflected on his opera *Saul and David* premiered also in 1902. In the Symphony No. 2, Nielsen portrays the four humors with his peculiar tonal design (that some experts refer to “progressive tonality”): the fast *colerico* (*Choleric*) (fiery, impetuous) movement in B minor, the waltz-style *flemmatico* (*Phlegmatic*) (composed, thoughtful) movement in G major, the slow *malincolico* (*Melancholic*) (joyless, analytical) movement in E-flat minor, and the fast *sanguineo* (*Sanguine*) (optimistic, cheerful) movement concluded by the A-major “Maziale (martial)” section in march rhythm.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 52

PROGRAM

C

Concert No.2011

NHK Hall

May

17 (Fri) 7:30pm

18 (Sat) 2:00pm

conductor

Fabio Luisi | for a profile of Fabio Luisi, see p. 50

concertmaster

Sunao Goko

[Pre-concert Chamber Music – Exclusive to Program C]

Friday 17th from 6:45pm / Saturday 18th from 1:15pm

Kei Ito (cl. & picc. cl.), Kazusa Mizutani (bn. & cbn.), Tomoyuki Hasegawa (tp. & fh.), Mikio Nitta (tb. & eup.), Satoshi Takeshima (perc.)

Ravel (Takeshima) / *Ma mère l'Oye, suite (Mother Goose)*

* You may enter and leave as you please during the performance.

* Enjoy chamber music from your own seat.

Felix Mendelssohn-Bartholdy
A Midsummer Night's Dream
—Overture, Nocturne, Scherzo,
***Wedding March* [28']**

Felix Mendelssohn-Bartholdy
Symphony No. 5 D Minor Op. 107,
***Reformation* [28']**

I Andante – Allegro con fuoco

II Allegro vivace

III Andante

IV Choral *Ein feste Burg ist unser Gott:*

Andante con moto – Allegro maestoso

- This concert will be performed with no intermission.

- All performance durations are approximate.

Program Notes | Kumiko Nishi

Felix Mendelssohn-Bartholdy (1809–1847)

A Midsummer Night's Dream
—Overture, Nocturne, Scherzo, *Wedding March*

The German-Romantic musician Mendelssohn was a gifted composer, pianist, organist, conductor and educator. To crown it all, he was well versed in every world of study and art. Besides his talent for painting, the cultured multilinguist developed his interest in literature

during his childhood and youth. One of his favorite authors was William Shakespeare whose *A Midsummer Night's Dream* inspired the seventeen-year-old composer to pen the concert overture in 1826. Seventeen years later, he would reuse it to compose incidental music for the entire comedy for a production in Potsdam.

The five-act comedy mainly takes place in a forest in an Athens suburb. The mortal young couple Hermia and Lysander, pursued by Demetrius (Hermia's fiancé) and Helena, reach the night forest. There, mortal tradesmen including Bottom get together, whereas Oberon (King of the Fairies) and Titania (Queen of the Fairies) are quarreling. Puck, Oberon's henchman, puts a magical love potion on Titania's eyelids so she falls in love with Bottom – whose head is, by Puck's prank, that of a donkey. Puck also applies the potion on Lysander's and Demetrius' eyelids so both love Helena, which throws the quartet into chaos. Oberon and Titania reconciles, every spell except Demetrius' is broken: the triple weddings of the two mortal couples and of Theseus (Duke of Athens) and Hippolyta (Queen of the Amazons) are celebrated.

Mendelssohn's *Overture* in sonata form is a perfect musical digest of the Bard's comedy. Prefatory four chords invite us to a magical world straight away, followed by the strings giving the nimble first theme to evoke fairies moving around. The mellifluous second theme represents the mortal lovers, we then hear Bottom's hee-haws foretelling the silliest happening of the comedy. *Nocturne*, opening with a horn tune backed by bassoons, illustrates the four lovers slumbering peacefully in the forest, while the lilting *Scherzo* depicts mischievous Puck and the fairy world. The universally celebrated trumpet fanfare commences *Wedding March* in splendid C major, which is the entr'acte music preceding the fifth marriage act.

Felix Mendelssohn-Bartholdy

Symphony No. 5 D Minor Op. 107, Reformation

Moses Mendelssohn (1729–1786), Felix's grandfather, was the renowned Jewish thinker of the German Enlightenment. Of Moses' children, two kept the Jewish religion and four, including Felix's father, became Christians. Of Jewish origin, Felix was baptized a Protestant in 1816 at age 7, six years earlier than his parents' conversion to the same church.

Felix Mendelssohn's No. 5 – the symphony he wrote before the *Scottish* and the *Italian*, the number 5 being due to the publication order – is connected to his faith. He began to compose it in late 1829 expecting it to be performed at the Berlin celebrations (June 1830) marking the tercentenary of the Presentation of the Augsburg Confession, the pivotal document for the Reformation. It turned out, however, the premiere at the celebrations couldn't happen. As to the reason, some say it was because the composer was Jewish, others say the work was too modern. In all cases, he delayed in completing it (May 1830) because of his ill-health. Also notable is the "revival" performance in March 1829 of J. S. Bach's *St Matthew Passion* under Mendelssohn's initiative and baton. He studied the Lutheran Baroque master's music especially intensively for some years prior to this historic concert.

No. 5 is cast in four movements. The slow D-major introduction is said to suggest Catholicism with the imitative writing in the style of the Renaissance Italian composer Palestrina and the "Dresden Amen," an ascending seven-note melody originally composed for the Catholic Royal Chapel in Dresden in the late 1700s. The ensuing main sonata section in D minor is grave, if not tragic. The next movement is a refined scherzo (or minuet) in ABA form, while the slow third movement evokes a Baroque aria. Then without pause, the finale's slow introduction starts with the flute solo quoting the Protestant chorale *Ein feste Burg ist unser Gott*

(A Mighty Fortress is Our God) written by Martin Luther (who was a flutist as well). The main sonata section – contrapuntal at times – will be triumphantly closed with the orchestra singing the chorale all together.

C

17 & 18, MAY, 2024

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 52

The Subscription Concerts Program 2023–24

A **NHK Hall**
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B **Suntory Hall**
Wed. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C **NHK Hall**
Fri. 7:30pm (doors open at 6:30pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2024 05	A	Concert No. 2010 May 11 (Sat) 6:00pm 12 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Panfili <i>Abitare la battaglia</i> (<i>Living the Battle</i>) [Japan Premiere] Respighi <i>Pini di Roma</i> , symphonic poem (<i>Pines of Rome</i>) Respighi <i>Fontane di Roma</i> , symphonic poem (<i>Fountains of Rome</i>) Respighi <i>Feste Romane</i> , symphonic poem (<i>Roman Festivals</i>) Fabio Luisi, conductor *Program order of the concert has changed from initially announced.	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800 E 2,800 E 1,400
	B	Concert No. 2012 May 22 (Wed) 7:00pm 23 (Thu) 7:00pm Suntory Hall	Brahms Piano Concerto No. 1 D Minor Op. 15 Nielsen Symphony No. 2 B Minor Op. 16, <i>The 4 Temperaments</i> Fabio Luisi, conductor Rudolf Buchbinder, piano	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
	C	Concert No. 2011 May 17 (Fri) 7:30pm 18 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Mendelssohn <i>A Midsummer Night's Dream</i> — <i>Overture, Nocturne, Scherzo, Wedding March</i> Mendelssohn Symphony No. 5 D Minor Op. 107, <i>Reformation</i> Fabio Luisi, conductor	Ordinary Youth S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,600 E 800
2024 06	A	Concert No. 2013 June 8 (Sat) 6:00pm 9 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Scriabin <i>Rêverie</i> , Op. 24 Scriabin Piano Concerto F-sharp Minor Op. 20 Scriabin Symphony No. 2 C Minor Op. 29 Keitaro Harada, conductor Kyohei Sorita, piano	Ordinary Youth S 9,100 S 4,000 A 7,600 A 3,500 B 5,900 B 2,800 C 4,800 C 2,100 D 3,800 D 1,500 E 2,000 E 1,000
	B	Concert No. 2015 June 19 (Wed) 7:00pm 20 (Thu) 7:00pm Suntory Hall	Webern Passacaglia Op. 1 Schönberg Violin Concerto Op. 36 J. S. Bach / Webern Ricercata Schubert Symphony No. 5 B-flat Major D. 485 Masato Suzuki, conductor Isabelle Faust, violin	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
	C	Concert No. 2014 June 14 (Fri) 7:30pm 15 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Ibert <i>Escales</i> (<i>Ports of Call</i>) Ravel Piano Concerto for the Left Hand D Major Debussy <i>Nocturnes</i> * Nodoka Okisawa, conductor Denis Kozhukhin, piano The Philharmonic Chorus of Tokyo, female chorus*	Ordinary Youth S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,600 E 800

(consumption tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

Program C

- Concerts will have a duration of 60 to 80 minutes without an interval.
- Pre-concert chamber music performance by the NHK Symphony Orchestra members will be held on stage (from 6:45pm on 1st day and from 1:15pm on 2nd day).

The Subscription Concerts Program 2024–25

2024 09	A	Concert No. 2016 September 14 (Sat) 6:00pm 15 (Sun) 2:00pm NHK Hall	The 200th Anniversary of Anton Bruckner's Birth Bruckner Symphony No. 8 C Minor (First Version/1887) Fabio Luisi, conductor	Ordinary Youth S 11,000 S 5,500 A 9,500 A 4,500 B 7,600 B 3,500 C 6,000 C 2,800 D 5,000 D 1,800 E 3,000 E 1,400	
		B	Concert No. 2017 September 19 (Thu) 7:00pm 20 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Schubert <i>Overture in the Italian Style</i> No. 2 C Major D. 591 Schumann Piano Concerto A Minor Op. 54 Beethoven Symphony No. 7 A Major Op. 92 Fabio Luisi, conductor Héléne Grimaud, piano	Ordinary Youth S 12,000 S 6,000 A 10,000 A 5,000 B 8,000 B 4,000 C 6,500 C 3,250 D 5,500 D 2,750
			C	Concert No. 2018 September 27 (Fri) 7:00pm 28 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Tchaikovsky <i>Variation on a Rococo Theme</i> , Op. 33 (Edited by Fitzenhagen)* Tchaikovsky <i>The Swan Lake</i> , ballet Op. 20 (Excerpts) Tadaaki Otaka, conductor Rei Tsujimoto (Principal Cello, NHKSO), cello*
2024 10	A	Concert No. 2020 October 19 (Sat) 6:00pm 20 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Honegger Symphony No. 3, <i>Liturgique</i> Brahms Symphony No. 4 E Minor Op. 98 Herbert Blomstedt, conductor	Ordinary Youth S 11,000 S 5,500 A 9,500 A 4,500 B 7,600 B 3,500 C 6,000 C 2,800 D 5,000 D 1,800 E 3,000 E 1,400	
		B	Concert No. 2019 October 10 (Thu) 7:00pm 11 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Sibelius <i>4 Legends</i> Op. 22, sym. poem— <i>The Swan of Tuonela</i> Nielsen Clarinet Concerto Op. 57 Berwald Symphony No. 4 E-flat Major, <i>Sinfonie naïve</i> Herbert Blomstedt, conductor Kei Ito (Principal Clarinet, NHKSO), clarinet	Ordinary Youth S 12,000 S 6,000 A 10,000 A 5,000 B 8,000 B 4,000 C 6,500 C 3,250 D 5,500 D 2,750
	C	Concert No. 2021 October 25 (Fri) 7:00pm 26 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Schubert Symphony No. 7 B Minor D. 759, <i>Unvollendete (Unfinished Symphony)</i> Schubert Symphony No. 8 C Major D. 944, <i>Große (The Great)</i> Herbert Blomstedt, conductor	Ordinary Youth S 11,000 S 5,500 A 9,500 A 4,500 B 7,600 B 3,500 C 6,000 C 2,800 D 5,000 D 1,800 E 3,000 E 1,400	
2024 11	A	Concert No. 2022 November 9 (Sat) 6:00pm 10 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Roussel <i>Bacchus et Ariane</i> , ballet Op. 43—Suite No. 1 <i>(Bacchus and Ariadne)</i> Bartók Piano Concerto No. 3 Ravel <i>Valses nobles et sentimentales (Noble and Sentimental Waltzes)</i> Debussy <i>Images for Orchestra—Iberia</i> Kazuki Yamada, conductor Francesco Piemontesi, piano	Ordinary Youth S 10,000 S 5,000 A 8,500 A 4,000 B 6,500 B 3,100 C 5,400 C 2,550 D 4,300 D 1,500 E 2,200 E 1,000	
		B	Concert No. 2024 November 21 (Thu) 7:00pm 22 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Tchaikovsky Violin Concerto D Major Op. 35 Prokofiev <i>The Tale of Stone Flower</i> , ballet <i>—The Mistress of the Copper Mountain, Wedding Suite</i> Stravinsky <i>Symphony in Three Movements</i> Dima Slobodeniouk, conductor Nikita Boriso-Glebsky, violin	Ordinary Youth S 12,000 S 6,000 A 10,000 A 5,000 B 8,000 B 4,000 C 6,500 C 3,250 D 5,500 D 2,750
	C	Concert No. 2023 November 15 (Fri) 7:00pm 16 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Wagner <i>Tannhäuser</i> , opera—Overture Weinberg Trumpet Concerto B-flat Major Op. 94 Shostakovich Symphony No. 5 D Minor Op. 47 Andrés Orozco-Estrada, conductor Reinhold Friedrich, trumpet	Ordinary Youth S 10,000 S 5,000 A 8,500 A 4,000 B 6,500 B 3,100 C 5,400 C 2,550 D 4,300 D 1,500 E 2,200 E 1,000	

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

A NHK Hall
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B Suntory Hall
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C NHK Hall
Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2024
12

A Concert No. **2025**
Nov. 30 (Sat)
6:00pm
Dec. 1 (Sun)
2:00pm
— The 1st day concert of the December subscription Program A will be held in November.
NHK Hall

The 150th Anniversary of Arnold Schönberg's Birth
Wagner *Tristan and Isolde (Tristan and Isolde)—Prelude and Liebestod*
R. Strauss *Das Rosenband* Op. 36-1 (*The Rose Chain*)*
R. Strauss *Freundliche Vision* Op. 48-1 (*A Welcome Vision*)*
R. Strauss *Waldseligkeit* Op. 49-1 (*Bliss in the Woods*)*
R. Strauss *Befreit* Op. 39-4 (*Released*)*
R. Strauss *Morgen* Op. 27-4 (*Tomorrow*)*
Schönberg *Pelleas und Melisande* Op. 5 (*Pelléas and Mélisande*)
Fabio Luisi, conductor Christiane Karg, soprano*

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

B Concert No. **2026**
December
5 (Thu) 7:00pm
6 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Smetana *The Bartered Bride*, opera—Overture
Rakhmaninov Piano Concerto No. 3 D Minor Op. 30
Mussorgsky / Ravel *Pictures at an Exhibition*, suite
Fabio Luisi, conductor
Nelson Goerner, piano

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C Concert No. **2027**
December
13 (Fri) 7:00pm
14 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

Liszt *Tasso: lamento e trionfo*, sym. poem (*Tasso: Lament and Triumph*)
Liszt *Eine Faust-Symphonie in drei Charakterbildern*
(*A Faust Symphony in Three Character Pictures*)*
Fabio Luisi, conductor
Jamez McCorkle, tenor* Tokyo Opera Singers, male chorus*

Ordinary	Youth
S 13,000	S 6,500
A 11,000	A 5,200
B 8,500	B 4,000
C 7,000	C 3,500
D 5,600	D 2,000
E 3,500	E 1,700

2025
01

A Concert No. **2028**
January
18 (Sat) 6:00pm
19 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Shostakovich Symphony No. 7 C Major Op. 60, *Leningrad*
Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

B Concert No. **2030**
January
30 (Thu) 7:00pm
31 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Mussorgsky / Liadov *The Fair at Sorochyntsi*, opera—*Introduction, Gopak*
Bartók Violin Concerto No. 2
Dvořák Symphony No. 8 G Major Op. 88
Tugan Sokhiev, conductor
Sunao Goko (First Concertmaster, NHKSO), violin

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C Concert No. **2029**
January
24 (Fri) 7:00pm
25 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

Stravinsky *Pulcinella*, ballet
Brahms Symphony No. 1 C Minor Op. 68
Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

2025
02

A Concert No. **2031**
February
8 (Sat) 6:00pm
9 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Zemlinsky *Sinfonietta*, Op. 23
R. Strauss Horn Concerto No. 1 E-flat Major Op. 11
Dvořák *The Wild Dove*, sym. poem Op. 110
Janáček *Sinfonietta*
Petr Popelka, conductor
Radek Baborák, horn

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

B Concert No. **2032**
February
13 (Thu) 7:00pm
14 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Mozart *Vado, ma dove?*, aria K. 583*
Mozart *Alma grande e nobil core*, aria K. 578*
Mozart Symphony No. 25 G Minor K. 183
Mozart *Bella mia fiamma, addio—Resta, oh cara*, recitative and aria K. 528*
Schumann Symphony No. 1 B-flat Major Op. 38, *Frühlingssinfonie*
(*Spring Symphony*)
Petr Popelka, conductor Emma Nikolovska, mezzo soprano*

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C Concert No. **2033**
February
21 (Fri) 7:00pm
22 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

Suppé *Leichte Kavallerie*, operetta—Overture (*Light Cavalry*)
Saint-Saëns Violin Concerto No. 3 B Minor Op. 61
Suppé *Dichter und Bauer*, operetta—Overture (*Poet and Peasant*)
Offenbach / Rosenthal *Gaîté Parisienne*, ballet (Excerpts) (*Parisian Gaiety*)
Tatsuya Shimono, conductor
Fumiaki Miura, violin

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

2025
04

A	Concert No. 2034	Berlioz <i>Harold en Italie</i> , symphony (<i>Harold in Italy</i>)* Prokofiev Symphony No. 4 C Major Op. 112 (Revised Version / 1947)	Ordinary S 11,000 A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000	Youth S 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,800 D 1,800 E 1,400
	April 12 (Sat) 6:00pm 13 (Sun) 2:00pm	Paavo Järvi, conductor Antoine Tamestit, viola*		
B	Concert No. 2035	Stravinsky <i>Petrushka</i> , ballet (Complete, 1947 Version) Britten Piano Concerto Op. 13 Prokofiev <i>The Love for Three Oranges</i> , symphonic suite Op. 33bis	Ordinary S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	Youth S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
	April 17 (Thu) 7:00pm 18 (Fri) 7:00pm	Paavo Järvi, conductor Benjamin Grosvenor, piano		
C	There will be no subscription concerts of program C in April due to the orchestra's European tour.			

2025
05

A	Concert No. 2036	The Program scheduled to be performed at Mahler Festival 2025 Mahler Symphony No. 3 D Minor	Ordinary S 15,000 A 12,500 B 10,000 C 8,000 D 6,500 E 4,500	Youth S 7,000 A 6,000 B 5,000 C 4,000 D 3,000 E 2,000
	April 26 (Sat) 6:00pm 27 (Sun) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor Olesya Petrova, mezzo soprano Tokyo Opera Singers, female chorus NHK Tokyo Children Chorus, children chorus		
B	Concert No. 2037	The Program scheduled to be performed at Mahler Festival 2025 (only Mahler) Berg Violin Concerto Mahler Symphony No. 4 G Major*	Ordinary S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	Youth S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
	May 1 (Thu) 7:00pm 2 (Fri) 7:00pm	Fabio Luisi, conductor Akiko Suwanai, violin Maki Mori, soprano*		
C	Concert No. 2038	Schubert <i>Rosamunde</i> , overture Dohnányi <i>Variations on a Nursery Tune</i> , Op. 25* R. Strauss Symphonic Fantasy from <i>Die Frau ohne Schatten</i> (<i>The Woman without a Shadow</i>) R. Strauss Suite from <i>Der Rosenkavalier</i> (<i>The Rose-Bearer</i>)	Ordinary S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	Youth S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000
	May 30 (Fri) 7:00pm 31 (Sat) 2:00pm	Giedrė Šlekytė, conductor Mao Fujita, piano*		

2025
06

A	Concert No. 2039	Rimsky-Korsakov <i>May Night</i> , opera—Overture Rakhmaninov <i>Rhapsody on a Theme of Paganini</i> , Op. 43* Tchaikovsky Symphony No. 6 B Minor Op. 74, <i>Pathétique</i>	Ordinary S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	Youth S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000
	June 7 (Sat) 6:00pm 8 (Sun) 2:00pm	Vladimir Fedoseyev, conductor Yulianna Avdeeva, piano*		
B	Concert No. 2040	Ibert Flute Concerto Bruckner Symphony No. 6 A Major	Ordinary S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	Youth S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
	June 12 (Thu) 7:00pm 13 (Fri) 7:00pm	Juanjo Mena, conductor Karl-Heinz Schütz, flute		
C	Concert No. 2041	Korngold Violin Concerto D Major Op. 35 Mahler Symphony No. 1 D Major, <i>Titan</i>	Ordinary S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	Youth S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000
	June 20 (Fri) 7:00pm 21 (Sat) 2:00pm	Tarmo Peltokoski, conductor Daniel Lozakovich, violin		

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

N響関連のお知らせ

いつでも どこでも、NHKの番組を。

NHK+



利用登録はこちらから

<https://plus.nhk.jp/info/>

総合・Eテレの番組を

スマホやタブレット・
パソコン・テレビ^{※1}で
放送から1週間^{※2} 何度でも



アプリで便利に！

お楽しみいただけます！

※1 テレビでは見逃し番組配信のみ

※2 地域によっては一部番組が配信不可

メールアドレスとパスワードを入力するだけで
すぐに見逃し配信をご覧いただけます

※ 放送受信契約のある世帯の方が追加のご負担なく利用できるサービスです

スマホやPCでNHKラジオが楽しめる！

NHK ラジオ らじる★らじる

スマートフォンやパソコンでラジオ第1(R1)・ラジオ第2(R2)・NHK-FMの放送をリアルタイムで聴くことができます。スマートフォンならアプリでもお楽しみいただけます。 <http://www.nhk.or.jp/radio>

放送が終わっても
楽しめる！

聴き逃し

放送終了後1週間／
聴き逃し対象番組のみ



スマートフォン用アプリはこちらから

伝えるチカラ

NHK財団

◎ 公共メディアNHKを社会へ

◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援！

2023年4月、NHKグループの4つの一般財団法人が合併して、NHK財団が発足しました。子法人の公益財団法人「NHK交響楽団」と共に、事業を進めていきます。

ステラ
net



NHK財団の最新情報ははこちらから

N響の社会貢献

音楽は人々を元気づけ、ひとときの安らぎを与えてくれます。

N響はコンサートホールを飛び出して、さまざまな場所、さまざまな人たちに美しい音色をお届けし、広く社会に貢献していきます。

子どもたちの未来を育む

「N響が学校にやってきた」をキャッチフレーズにNHKと共催し、楽員たちが全国の小中学校を訪ねてミニコンサートを開く「NHKこども音楽クラブ」、クラシックの名曲を集めて毎年夏休みに開いている子どもと大人がともに楽しめるコンサート「N響ほっとコンサート」、N響の練習所に地元の保育園児を招いて楽器の音色を楽しんでいただく「N響といっしょ! 音を楽しむ!!」などを開催しています。また、小中学校と協力し、子どもたちが創作と演奏をN響メンバーと一緒に体験するワークショップに取り組みなど、新たな音楽教育プログラムの開発にも力を入れています。

優れた音楽家を育てる

1950年代に「指揮研究員」制度を設置し、有望な若手指揮者をオーケストラの現場に迎え入れ、国内外の巨匠たちとの音楽づくりに携わる機会を提供してきました。この場から故・外山雄三氏、故・岩城宏之氏、故・若杉弘氏、そして現在のN響正指揮者・尾高忠明をはじめ、日本のクラシック音楽界を担う人材を数多く輩出しています。また2003年にはオーケストラ楽員の人材育成を目的に「N響アカデミー」を創設。オーディションで選抜された受講生が、楽員からのレッスン、リハーサルや公演の参加などを通じてトレーニングを積み、修了生はN響をはじめ国内外のオーケストラで活躍しています。

指揮研究員

平石章人、湯川紘恵

N響アカデミー在籍者

ヴァイオリン：下野園ひな子、遠井彩花、中井楓梨、

山本大心 ヴィオラ：和田志織 チェロ：渡邊ゆかり
コントラバス：桑原孝太郎 クラリネット：浦畑尚吾
(2024年5月1日現在)

病院や福祉施設、被災地に届ける

病院や高齢者施設を楽員が訪れてミニコンサートを開き、入院する患者さん、看病するご家族、お年寄りの方たちに安らぎのひと時をお届けしています。また被災地にも出向き、演奏を通じての現地の人たちの応援にも力を入れてきました。

国際交流の輪を広げる

首都圏の大学と連携して外国人留学生を公演に招待しているほか、演奏指導などを通じてベトナム国立交響楽団との交流を重ねています。音楽は世界の架け橋です。演奏を通じた絆が世界中に広がることを願っています。

大学や専門家と連携する

コロナ禍では業界団体によって行われた演奏中の飛沫を調べる実験に多くの楽員、職員を派遣して協力。この実験を通じ、舞台上の安全な楽器の配置などがわかり、業界の統一したマニュアル作りに役立ちました。2021年からは東京工科大学の授業の一環に協力してN響コンサートのYouTube配信を実現。メディア学部の学生たちが撮影、編集を担当し、NHK出身の職員らの指導を受けてプロ顔負けの作品に仕上げました。N響はこれからも異なる分野の人たちと手をたずさえ、デジタル活用など新しい課題に取り組みます。

役員等・団友

役員等

理事長	今村啓一
常務理事	中野谷公一 三溝敬志
理事	相川直樹 内永ゆか子 岡田知之 笠原裕之 杉山博孝 錢谷真美 團 宏明 毛利 衛
監事	浜村和則 江口貴之
評議員	稲葉延雄 江頭敏明 樺山紘一 熊埜御堂 朋子 清野 智 田中宏暎 檀 ふみ 坪井節子 前田昭雄 松居 匡 三浦 惺 山名啓雄 渡辺 修

事務局

演奏制作部	企画プロモーション部	経営管理部	技術主幹			
岩渕一真 山田大祐 石井 康 利光敬司 高木かおり	沖 あかね 内山弥生 徳永匡哉 高橋 啓 宮崎則匡	黒川大亮 上原 静 木村英代	田内誠人 猪股正幸 吉賀亜希 三浦七菜子	野村 歩 浅田武志 山本能寛 吉田麻子 目黒重治	姫野 恵 杉山真知子	尾澤 勉
						芸術主幹 西川彰一

団友

	チェロ	オーボエ	トランペット	瀬戸川 正 百瀬和紀	事務局
鶴我裕子 徳永二男 中瀬裕道 名譽コンサート マスター	岩井雅音 木越 洋 齋藤鶴吉 堀 伝	青山聖樹 北島 章 浜 道晃 茂木大輔	井川明彦 北村源三 来馬 賢 関山幸弘 津堅直弘 栃本浩規 福井 功 佛坂咲千生	ピアノ 本荘玲子	稲川 洋 入江哲之 金沢 孝 小林文行 清水永一郎 関 照枝 中馬 究 出口修平 西村集介 芳賀由明 松崎ユリ 望戸一男 諸岡 淳 吉田博志 渡辺 克 渡辺克己
堀 正文	堀江 悟 銅銀久弥 前澤 均 丹羽絳彦 宮里親弘 武藤伸二 村上和邦 山口裕之 蓬田清重	クラリネット 平野秀清 藤本英雄 茂木新緑	ホルン 磯部周平 加藤明久 横川晴児	理事長 曾我 健 田畑和宏 野島直樹 日向英実 木田幸紀 森 茂雄 今井 環 根本佳則	
ヴァイオリン	コントラバス 井戸田善之 志賀信雄 田中雅彦 中 博昭 佐川裕昭 新納益夫	ファゴット 岡崎耕治 霧生吉秀	トロンボーン 伊藤 清 神谷 敏 栗田雅勝 関根五郎 三輪純生	役員 加納民夫 唐木田信也 齊藤 滋 関川精二 鳴嶋郁夫 原 武 山崎大樹	
板橋 健 梅澤美保子 海野義雄 大澤 浄 大林修子 大松八路 金田幸男 川上朋子 川上久雄 窪田茂夫 黒柳紀明 公門俊之 齋藤真知理 酒井敏彦 清水謙二 鈴木弘一 田淵 彰 田中 裕	ヴィオラ 大久保淑人 小野富士 梯 孝則 河野昌彦 菅沼準二 店村眞楨 田淵雅子 中竹英昭 三原征洋 村山 弘 宮本明恭	ホルン 大野良雄 田村 宏 中島大之 樋口哲生 松崎 裕 山田桂三 山本 真	チューバ 多戸幾久三 原田元吉		

フィルハーモニー2024年5月号 | 第96巻 第4号

2024年5月1日発行 ISSN 1344-5693

公益財団法人NHK交響楽団

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49

TEL: (03) 5793-8111 / FAX: (03) 3443-0278

発行人◎三溝敬志 / 編集人◎猪股正幸

企画・編集: (財)NHK財団

取材・編集: 株アルテスパブリッシング

表紙・本文デザイン: 寺井恵司

印刷: 佐川印刷株式会社

©無断転載・複製を禁ず

古美術とは歴史であり、歴史とは人である

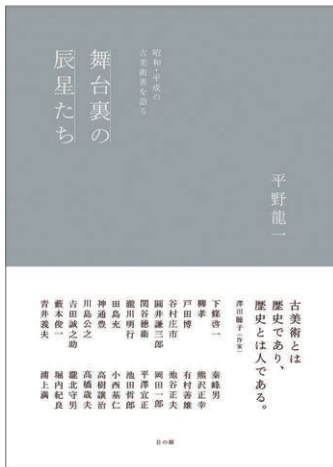
—澤田瞳子(作家)

新刊書籍のご案内

舞台裏の辰星たち

昭和・平成の古美術界を語る

東洋古美術を扱う平野古陶軒(東京・京橋)の三代目であり、サザビーズジャパンで代表取締役を務めたこともある平野龍一氏が、26人の古美術商と語り尽くす対談集。日本の美術史のなかで、決して表舞台に立つことはないものの、モノとヒトを繋ぐ重要な役割を果たしてきたのが古美術商の存在だ。その研ぎ澄まされた眼と感性で美術界をリードしてきた26人のレジエンドが、昭和・平成の20世紀を駆け抜け、21世紀の今にいたるまでの挑戦や夢を語る。知られざるエピソードが詰まった古美術談義だ。



著者 平野龍一



定価4,000円(税別)

2024年5月上旬発売予定

*目の眼ウェブサイト、AMAZON等で受付中

骨董・古美術月刊誌『目の眼』で二〇二〇年から四年にわたり、好評を博した連載「舞台裏の辰星たち」が待望の書籍化。

骨董・古美術の不思議を知る

月刊誌『目の眼』、公式ウェブサイトやSNSで、骨董・古美術に関連する様々な情報をお届けしています。

月刊誌『目の眼』5月号 | 発売中 1,650円税込
特集「春の鑑賞陶磁入門 奥田誠一と目利きたちの時代」

目の眼

menomeonline.com



明電舎 presents

N響音

名曲コンサート2024

彩りあふれる
物語と風景、
オーケストラが
空想の世界に誘う

Pascal Rophé

指揮：パスカル・ロフェ

Jonathan Fournel

ピアノ：ジョナタン・フルネル



ブリテン | 歌劇「ピーター・グライムズ」
—「4つの海の間奏曲」作品33a

Britten | *Peter Grimes, opera — Four Sea Interludes Op. 33a*

ラヴェル | 左手のためのピアノ協奏曲 二長調

Ravel | *Piano Concerto for the Left Hand D Major*

フォーレ | 組曲「ペレアスとメリザンド」作品80

Fauré | *Pelléas et Mélisande, suite Op. 80*

ドビュッシー | 交響詩「海」

Debussy | *La mer, three symphonic sketches*



管弦楽：NHK交響楽団
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

2024年9月9日 [月] 7:00pm | サントリーホール

■ 発売開始：5月24日 [金] 10:00am ■ N響定期会員先行発売：5月14日 [火] 10:00am

■ 料金 (税込)

一般	ユースチケット(29歳以下)	
SS	¥8,500	SS ¥4,200
S	¥6,500	S ¥3,200
A	¥5,000	A ¥2,500
B	¥3,500	B ¥1,700
C	¥2,500	C ¥1,200

※定期会員は一般料金から10%割引

■ 前売所

- WEBチケットN響： <https://nhkso.pia.jp>
- N響ガイド：0570-02-9502
- サントリーホール チケットセンター：0570-55-0017
suntory.jp/HALL/
- チケットぴあ：pia.jp/t/nhkso
- e+(イープラス)：eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット：l-tike.com/nhkso

【お問い合わせ】

N響ガイド 0570-02-9502

営業時間：10:00am～5:00pm(営業日はN響ホームページをご覧ください)

※ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。 ※定期会員割引・先行発売のお取り扱いにはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。 ※車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。 ※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。 ※未就学児のご入場はお断りしています。 ※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。 ※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

特別協賛：
MEIDEN

株式会社 明電舎

主催：NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

N響定期を75分で

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO



「いいとこどり」!

9月にシーズンが始まる「N響定期公演」の直前に行われるのがこのコンサート。名作揃いの定期公演プログラムから、選りすぐりの聴きどころを75分間にギュッと詰め込んでお贈りします。

オーケストラは初めてという方、どの演奏会に行くか迷っている方、長年N響定期会員を続けられてきた方、とにかく手取り早くオーケストラの名曲を楽しみたい方、みんなウェルカムです。みんなを連れだしてNHKホールに足をお運びください。

ウェルカム コンサート N響音



NHKSO
Welcome
Concert



©Naoya Yamaguchi



定期公演ってなあに？

プロのオーケストラにとって「定期公演」は活動の中心となる大切なコンサート。N響では1927年に第1回が行われ、2023年12月に第2000回を迎えました。A・B・Cの3つのシリーズ毎に年間9回（*）各2日ずつ、合計年間54公演（*）にわたって世界的な指揮者・ソリストたちと演奏を繰り返します。

*2024-25シーズンのCプログラムは年間8回のため、合計年間52公演です。

- スッペ／喜歌劇「**軽騎兵**」序曲 から（2月C）
- ドビュッシー／「**イベリア**」―「祭りの朝」（11月A）
- シューマン／交響曲 第1番「**春**」―第2楽章（2月B）
- マーラー／交響曲 第1番「**巨人**」―第2楽章（6月C）
- チャイコフスキー／**ロココ風の主題による変奏曲**―第6、7変奏*（9月C）
- プロコフィエフ／バレエ音楽「**石の花**」結婚組曲―「結婚の歌」（11月B）
- ブラームス／交響曲 第4番―第3楽章（10月A）
- ムソルグスキー（ラヴェル編）／組曲「**展覧会の絵**」
―「バーバ・ヤガーの小屋」「キエフの大門」（12月B）

2024.9.5 [木] 7:00pm
NHKホール 休憩のない75分程度の公演です。

指揮：下野竜也（N響正指揮者）

チェロ：辻本 玲*（N響首席チェロ奏者）

ナビゲーター：大林奈津子

発売開始 5月24日（金）10:00am（定期会員先行発売：5月14日（火）10:00am）

前売所

- ◎WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>
- ◎N響ガイド 0570-02-9502 ◎チケットぴあ pia.jp/t/nhkso
- ◎e+（イープラス） eplus.jp/nhkso ◎ローソンチケット 1-tike.com/nhkso

*ユースチケット（29歳以下）はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。※定期会員割引・先行発売のお取り扱いはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。※非会員席についてはN響ガイドにお問い合わせください。※N響ガイドでの申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。公演中止のご入場はお断りいたします。※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合は、チケット代金の払い戻しはいたしません。※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

お問い合わせ：N響ガイド 0570-02-9502 営業時間：10:00am～5:00pm

※営業日はN響ホームページをご覧ください。※主催公開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業いたします。※電話受付のみは営業となります。

主催：NHK／NHK交響楽団

料金（税込／全席指定）

NHKホールが1ランク設定
良席はお早めに!

一般：¥1,800／定期会員：¥1,200

29歳以下はさらにお得！
ユースチケット（29歳以下）¥500

お得にみんなでNHKホールに!
ウェルカム・ペアチケット
（2枚1組）：¥2,000

※一般・定期会員共通料金





夏だ！祭りだ！！

N響ほっと

世界ぐるっと名曲の旅

NHKSO HOTTO CONCERT

コンサート



2024年7月27日(土) 3:30pm
(開場 2:00pm)

NHKホール(東京・渋谷)



指揮：クリスティーナ・ボスカ



ピアノ：アレクサンドラ・ドヴガン



管弦楽：NHK交響楽団

お問い合わせ N響ガイド 0570-02-9502

営業時間：10:00am～5:00pm(定休日：土・日・祝日)

※主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業いたします。
※電話受付のみの営業となります。

主催：NHK/NHK交響楽団

協賛：株式会社NTTドコモ

協力：株式会社グローバル/グローバル管楽器技術学院

ジョン・ウィリアムズ／オリンピック・スピリット(アメリカ)
エッレル／マイ・ホームランド(エストニア)
ブリテン／青少年のための管弦楽入門(イギリス)
グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調から 第1楽章(ノルウェー)
ヨハン・シュトラウスI世／ラデツキー行進曲(オーストリア)
マスカーニ／歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」間奏曲(イタリア)
ビゼー／「アルルの女」組曲 第2番―「ファランドール」(フランス)

発売開始 5月24日(金) 10:00am(定期会員先行発売:5月14日(火)10:00am)

前売所

- ◎WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp> ◎N響ガイド 0570-02-9502
- ◎チケットぴあ pia.jp/t/nhkso ◎e+(イープラス) eplus.jp/nhkso
- ◎ローソクチケット 1-tike.com/nhkso

※「小・中学生」のチケットはすべての前売所でご購入いただけます。
※「29歳以下(ユースチケット)」はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。
※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。
※定期会員割引・先行発売のお取り扱いにはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。
※車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。
※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。
※小学生は、保護者の方と一緒にご購入ください。
※未成年者のご入場はお断りしています。
※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。
※公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。
※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

Follow us on  nhkso.or.jp

「N響ほっとコンサート」公式Xアカウント オープン! このコンサートのより詳しい情報を発信します



N響

Summer Concert 2024

「夏」

この夏、自然の情景の中で
想像の翼を広げてみませんか

2024 [東京公演]

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

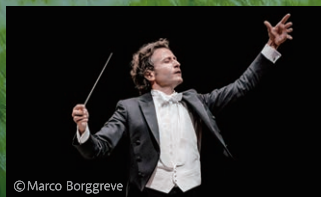
主催：NHK / NHK交響楽団 協賛：岩谷産業株式会社

2024年 7月12日(金) 7:00pm NHKホール

Friday, July 12, 2024 7:00p.m. NHK Hall

シベリウス
ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47
Sibelius Violin Concerto D Minor Op. 47

ベートーヴェン
交響曲 第6番 へ長調 作品68「田園」
Beethoven Symphony No. 6 F Major Op. 68, Pastorale



© Marco Borggreve



© Nikolaj Lühd



指揮
グスターボ・ヒメノ
Gustavo Gimeno, conductor

※当初発表の指揮者から変更となりました。

ヴァイオリン
ノア・ベンディックス・バルグリー
Noah Bendix-Balgley, violin

管弦楽
NHK交響楽団
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

発売開始 5月24日(金) 10:00am
(定期会員先行発売：5月14日(火) 10:00am)

お問い合わせ N響ガイド 0570-02-9502
※営業日・営業時間はN響ホームページをご覧ください

料金(税込) ※定期会員は一般料金から10%割引

[一般] S: ¥7,300 A: ¥5,300 B: ¥3,300 C: ¥2,100

[ユースチケット] S: ¥3,600 A: ¥2,600 B: ¥1,600 C: ¥1,000
(29歳以下)

nhkso.or.jp

Follow us on



水素で世界を動かせ。

Iwatani
岩谷産業株式会社

指揮：ペーター・ルンデル★

Peter Rundel, conductor

ハープ：グザヴィエ・ドゥ・メストレ

Xavier de Maistre, harp

ピアノ：フランソワ・フレデリック・ギイ

François-Frédéric Guy, piano

管弦楽：NHK交響楽団

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

★当初予定のベアテル・エトヴェシュ（指揮）から変更となりました。

NHK SO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

TOKYO
OPERA
CITY

N響 MUSIC TOMORROW 2024

May 28 (Tuesday) 7:00pm
Otaka Award Ceremony / Pre-Concert Talk 6:30pm
Tokyo Opera City Concert Hall

2024年5月28日 火 7:00pm

東京オペラシティ コンサートホール

毎年（Music Tomorrow）で演奏される「尾高賞」（N響制定）の受賞作品として今回選ばれたのは、湯浅譲二の『打楽器、ハープ、ピアノ、弦楽オーケストラのための「哀歌」』。湯浅の作品が同賞を受賞するのは5回目である。玲子夫人を喪った悲しみを乗り越えようともがく湯浅が一音一音に込めたエネルギーと、人間的で温かい眼差しが聴く人の心をつつ。湯浅は1970年の大阪万博で、2つのパリオンの音楽を担当していたが、このときドイツ館で演奏していたシュトゥックハウゼンのアンサンブルのメンバーに、その後作曲家・指揮者として大成したベアテル・エトヴェシュがいた。『ロシア・アヴァンギャルド』の芸術家、マレーヴィチ（1879-1935）の抽象絵画を題材にした『マレーヴィチを読む』では、種々の楽器を知り尽くしたエトヴェシュの熟練の技が、色彩感に富んだ絢爛たる響きを作り出す。『ハープ協奏曲』は、今年80歳を迎えた作曲家の活気と躍動感にあふれた新作。世界的名手グザヴィエ・ドゥ・メストレの妙技が冴えわたる。エトヴェシュはかつて、トリスタン・ミュライユの代表作となった『デンテラグランシオン』（1982-83）の初演を指揮していた。音響を分析し作曲するスペクトル音楽派の中核を担ったミュライユは、合理的な創作手法にもかかわらず、水や風といった自然をしばしば発想の源とする。煌びやかな音と瑞々しい抒情が魅力的なピアノ協奏曲『嵐の目』のソリストは、作曲者が厚い信頼を寄せるフランソワ・フレデリック・ギイ。エトヴェシュに学んだ現代音楽に定評ある指揮者、ペーター・ルンデルの鮮やかな手腕にも期待したい。

平野貴俊（音楽学・音楽評論）

尾高賞授賞式・プレトーク
6:30pm

エトヴェシュ／マレーヴィチを読む（2018）〔日本初演〕

Eötvös / Reading Malevich (2018) [Japan Première]

湯浅譲二／打楽器、ハープ、ピアノ、弦楽オーケストラのための「哀歌（エレジー）—for my wife, Reiko—」（2023）

〔第71回「尾高賞」受賞作品〕

Yuasa / An Elegy—for my wife, Reiko—, for Percussion, Harp, Piano and String Orchestra (2023) [The 71st Otaka Award Work]

エトヴェシュ／ハープ協奏曲（2023）

〔NHK交響楽団／フランス放送フィルハーモニー管弦楽団／ベルリン放送管弦楽団・合唱団有限公司／スイス・ロマンド管弦楽団／ウィーン楽友協会／ホルトカーザダムシカ共同委嘱作品・日本初演〕

Eötvös / Harp Concerto (2023) [Co-commission Work for NHK Symphony Orchestra, Orchestre Philharmonique de Radio France, Rundfunkorchester- und Chöre GmbH (Berlin), Orchestre de la Suisse Romande, Wiener Musikverein, and Casa da Musica (Porto) / Japan Première]

ミュライユ／「嵐の日」—ピアノとオーケストラのための幻想即興曲（2022）

〔NHK交響楽団／ラジオフランス／BBCラジオ3／NDRエルブフィルハーモニー管弦楽団 共同委嘱作品・日本初演〕

Murail / L'œil du cyclone, fantaisie-impromptu for piano and orchestra (2022)

[Co-commission Work for NHK Symphony Orchestra, Radio France, BBC Radio 3, and NDR Elbphilharmonie Orchester / Japan Première]

チケット発売中

チケット料金（税込）

- ◎ 一般 | S:3,500円 / A:2,500円 / B:1,500円
- ◎ ユースチケット（25歳以下） | 全席種:500円
- ◎ WEBチケットN響 特別料金 | S:3,000円 / A:2,000円 / B:1,000円

- 悪いことについてはN響ガイドにお問い合わせください
- 発券期会員先行発売の取り扱いは、WEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。
- N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります
- 未就学児のご入場はお断りしています

- WEBチケットN響: <https://nhkso.pia.jp>
- N響ガイド: 0570-02-9502
- 東京オペラシティ チケットセンター: 03-5353-9999
- チケットぴあ: pia.jp/t/nhkso
- e+ (イープラス): eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット: l-tike.com/nhkso



WEBチケットN響

お問い合わせ

N響ガイド: 0570-02-9502

営業時間: 10:00am ~ 5:00pm (定休日: 土・日・祝日)

- ※ 主催公演開催日は曜日にかかわらず10:00am ~ 開演時刻まで営業いたします。
- ※ 発売初日の土・日・祝日は10:00am ~ 3:00pmの営業となります。
- ※ 電話受付のみの営業となります。

主催: NHK / NHK交響楽団

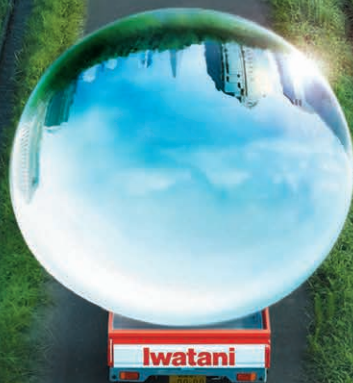
共催: 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団

助成: 公益財団法人 三菱UFJ信託芸術文化財団

nhkso.or.jp | Follow us on



脱炭素の道へ。 水素とLPガスが加速する。



2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・**Maruigas**の全国330万世帯以上の販売ネットワークを活かし、脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由来の水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。

私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ

クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

水素&LPガスシェアNo.1*

*国内における販売シェア(ただし、水素はオンサイト・パイピングを除く。2023年5月現在、自社調べ)

Iwatani

岩谷産業株式会社